



始



83
489

美育新梯
鑑賞一般
美育振興會編

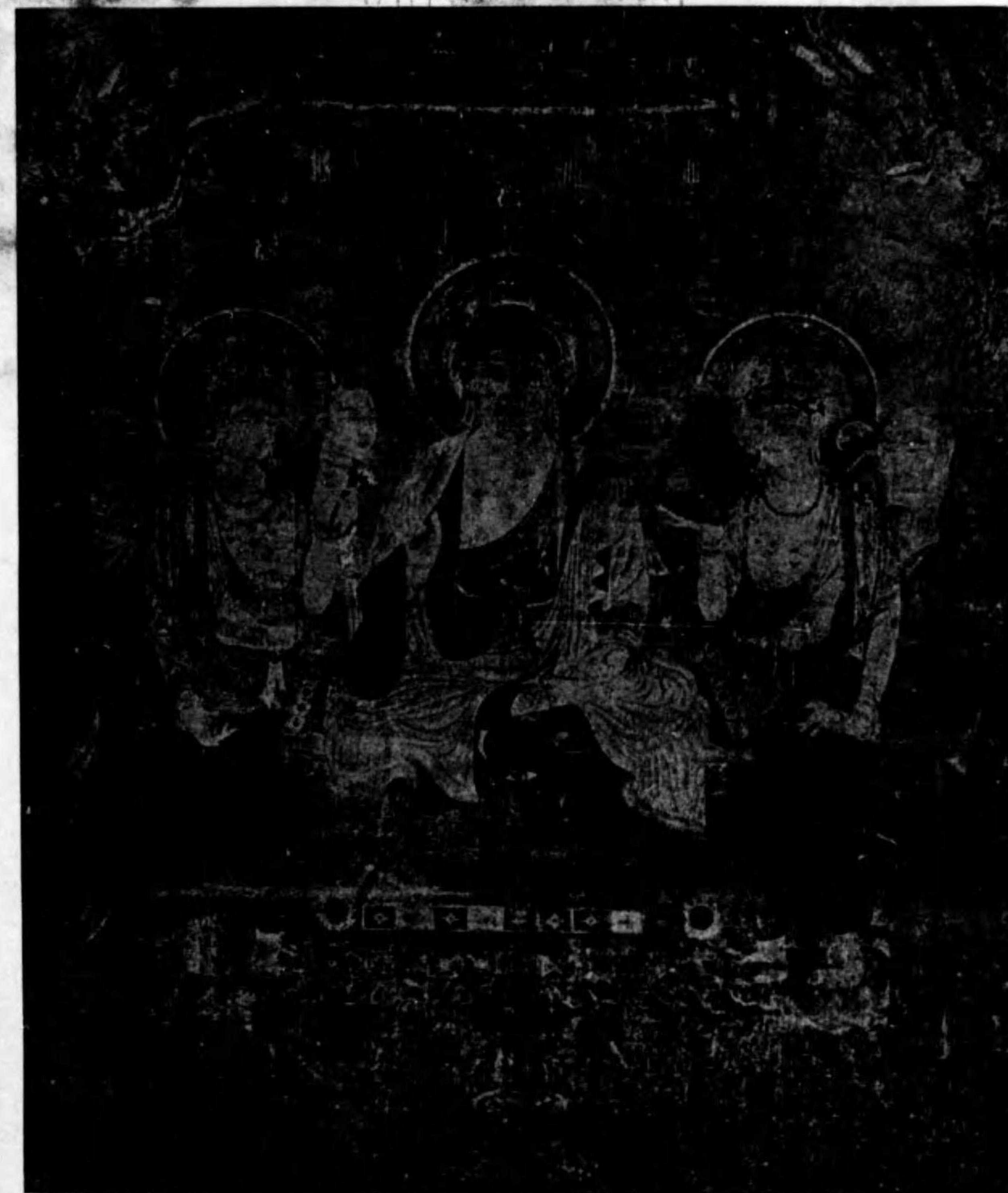
22

489



編會撰集

般 一 賞 鑑



選練美育新梯 鑑賞一般 目次

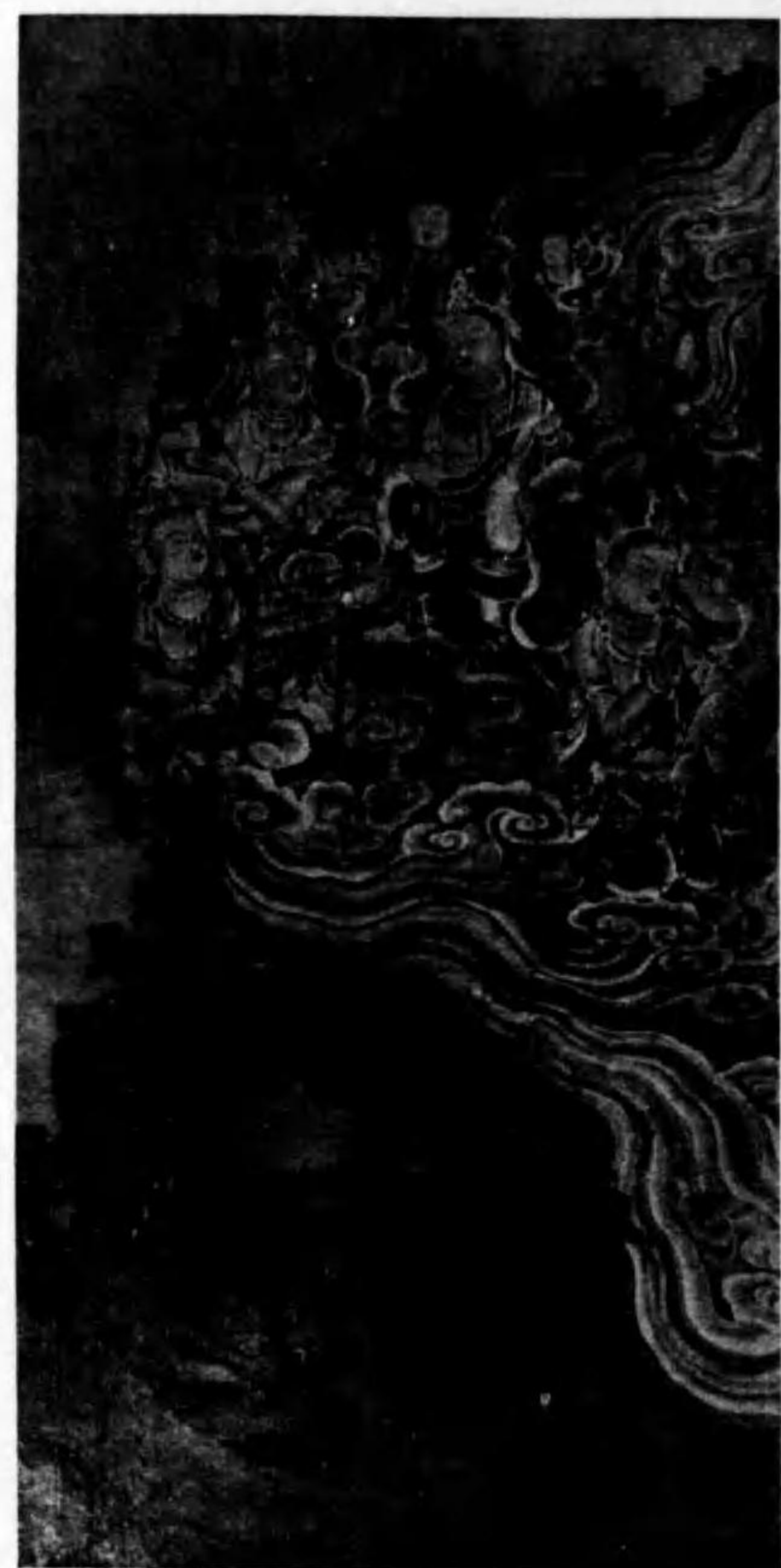
1 吉祥天女像		16 春	ボッチェリー
2 阿彌陀二十五菩薩來迎圖	傳 惠心僧都	17 最後の晩餐	レオナルド
3 春日権現験記	高階 隆兼	18 システィン・マドンナ	ラファエロ
4 { 山水圖	夏 珪	19 最後の審判	ミケランジェロ
{ 西林禪室圖	倪 雲 林	20 四人の聖徒	デューラー
5 惠可斷臂圖	僧 雪 舟	21 聖なる家庭	レムブランド
6 秋草鴉圖	土 佐 光 起	22 パリカード	ドラクロア
7 虎	狩 野 探 幽	23 牧羊婦	ミ レ ー
8 鹿の圖	尾 形 光 琳	24 ヴェニス	ターナー
9 { 山水	奥 謝 蕨 村	25 藝術と科學	シャヴァンヌ
{ 松下鯉魚圖	圓 山 應 舉	26 靜物	セザンヌ
10 大橋の夕立	安 藤 廣 重	27 鏡の前	ルノアール
11 虎溪三笑	橋 本 雅 邦	28 { 若い水夫	マ チ ス
12 { 春雨	横 山 大 觀	{ 人物	ピ カ ソ
{ 秋山晚晴	竹 内 栖 風		
13 { 梵天像	傳 良 辨 僧 正	29 { 圓盤投げ	ミ ロ ン
{ 釋迦三尊像	止 利 佛 師	{ ラムセス二世像	
{ 阿彌陀像	傳 定 朝	{ モーゼ像	ミケランジェロ
{ 金剛力士像	運 慶・快 慶	{ 考へる人	ロ ダ ン
14 { 春日神社			
{ 法隆寺金堂			
{ 金閣			
{ 姫路城			
15 { 菓子器	尾 形 乾 山	30 { バルテノン	
{ 唐織裂		{ ピサの斜塔	
{ 十二稜銀鏡		{ ケルンの寺院	
{ 華鬘		{ ルーブル	
{ 徳利	酒井田柿右衛門	附 { 美術史大要	
		{ 美術年表	



1 吉祥天女像

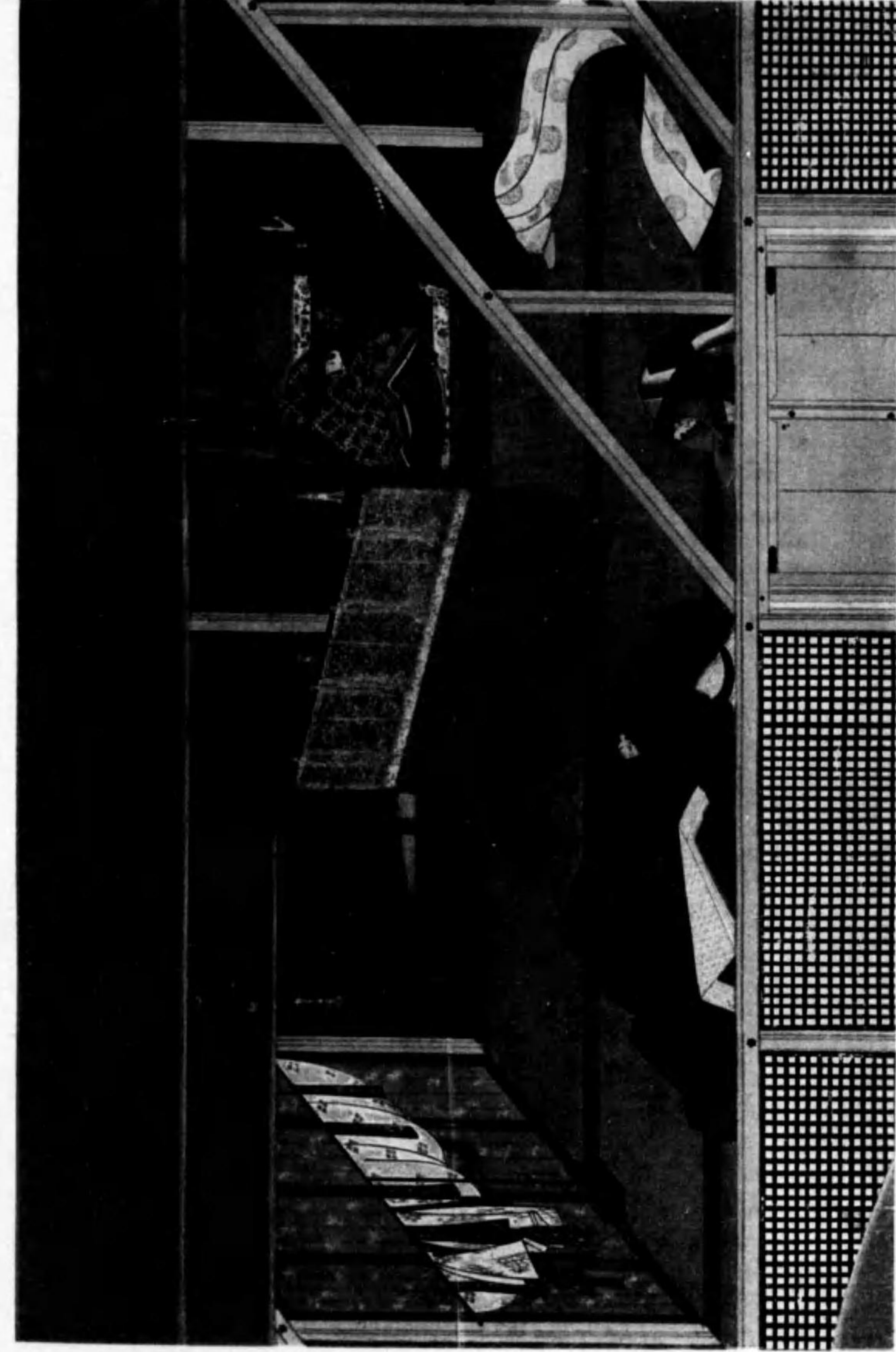


傳惠心僧都



2 阿彌陀二十五菩薩來迎圖

傳惠心僧都





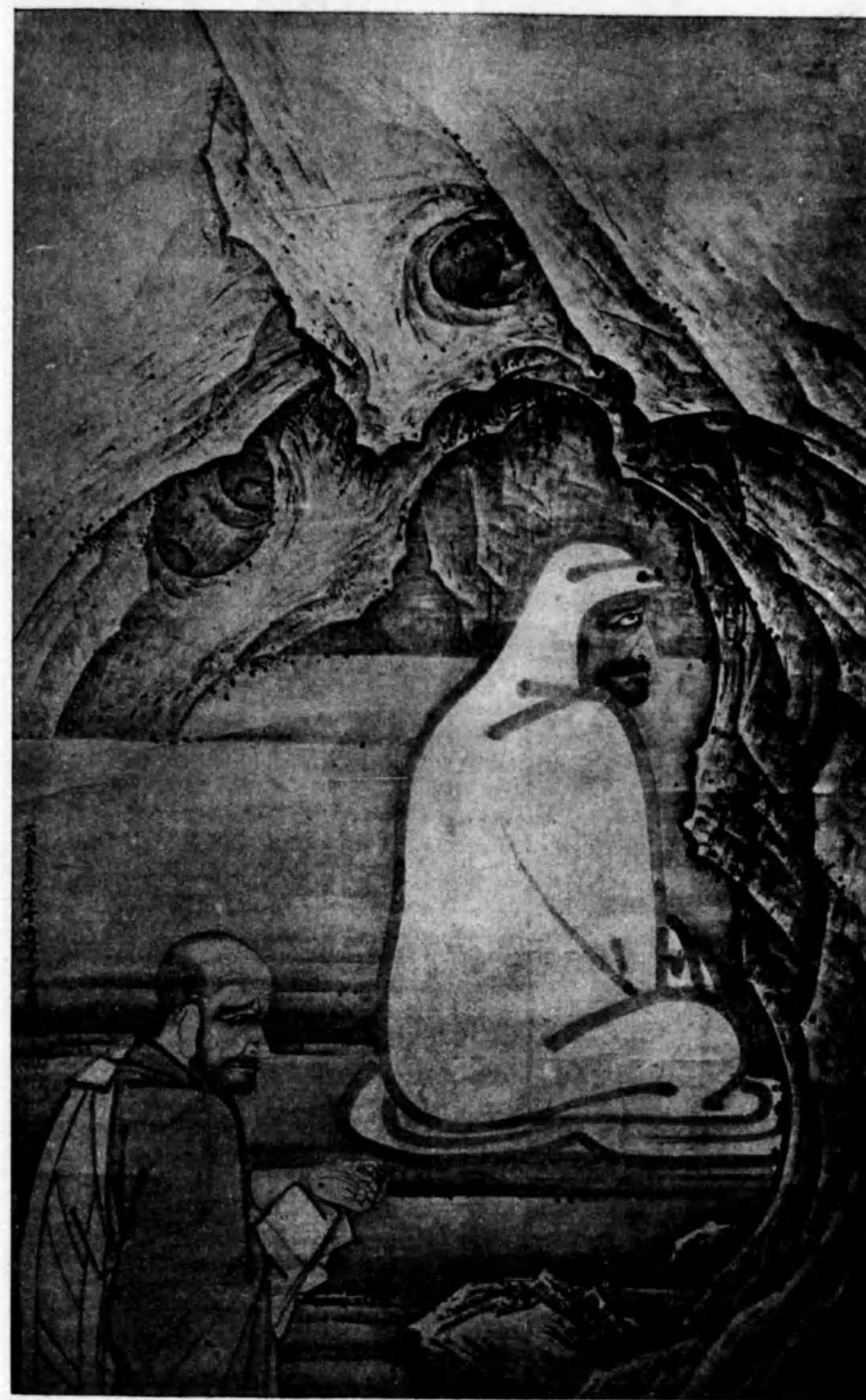
山水圖

夏珪



西林禪室圖

倪雲林



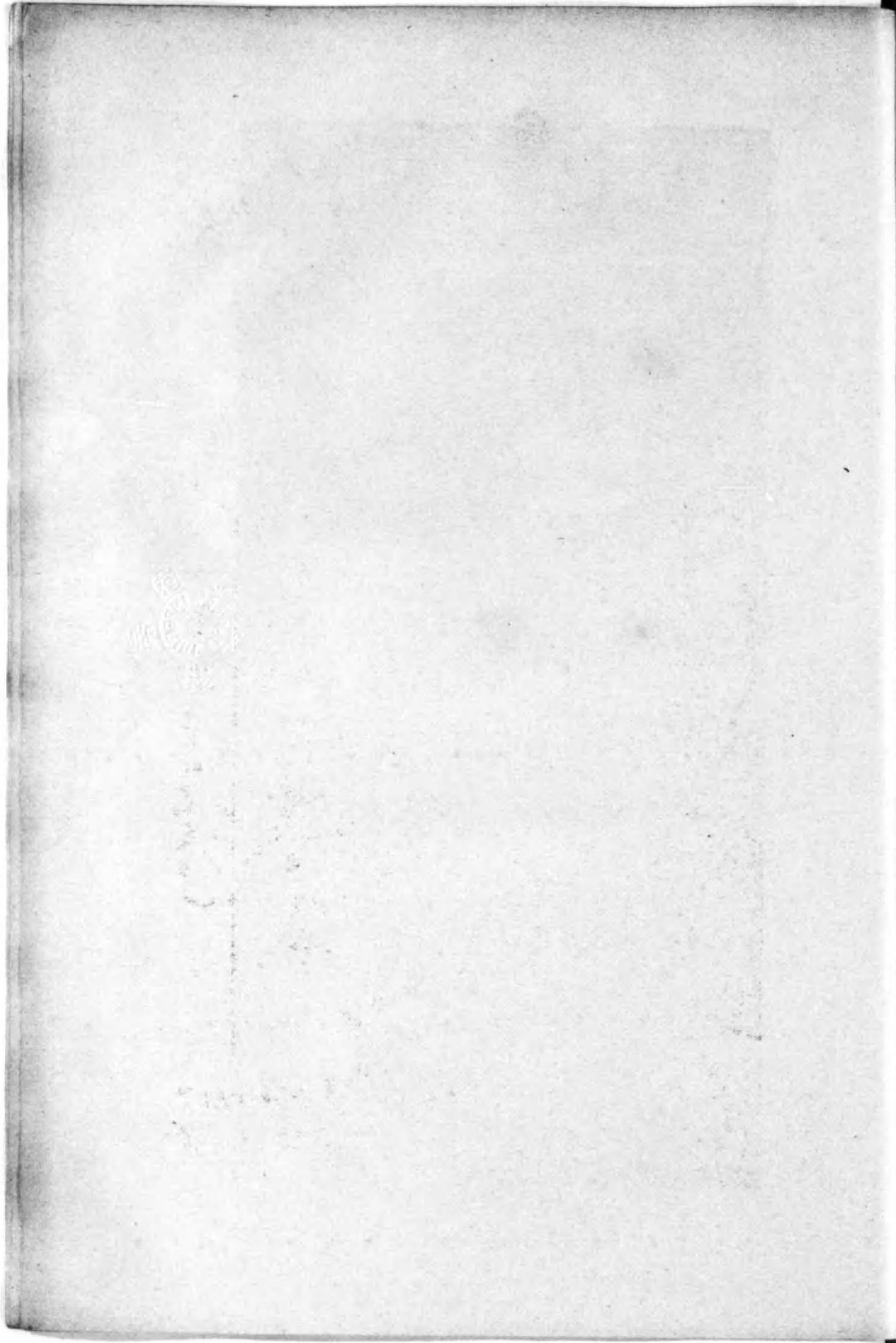
5 寒可斯臂圖

僧 雪 舟

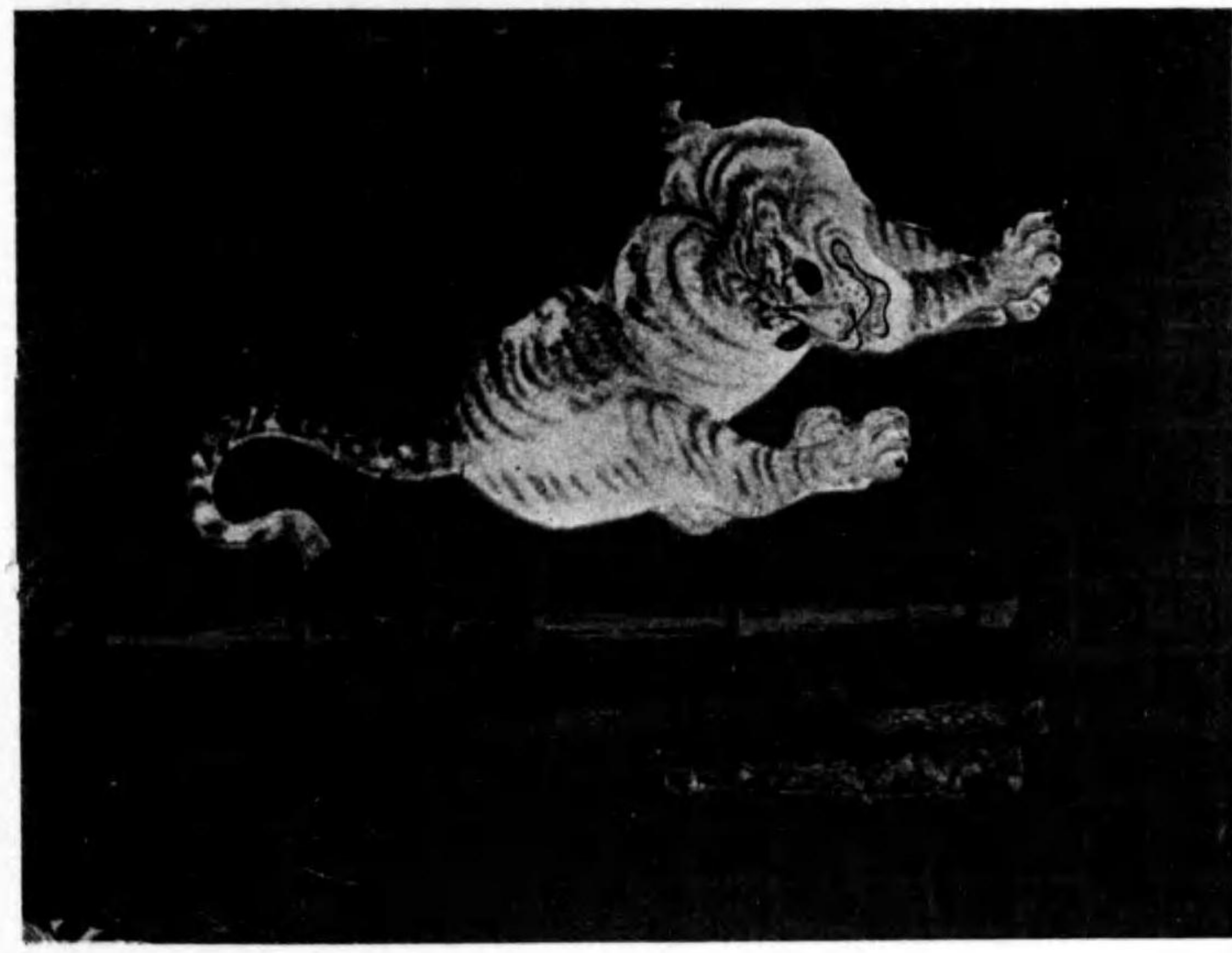


6 秋草鶉圖

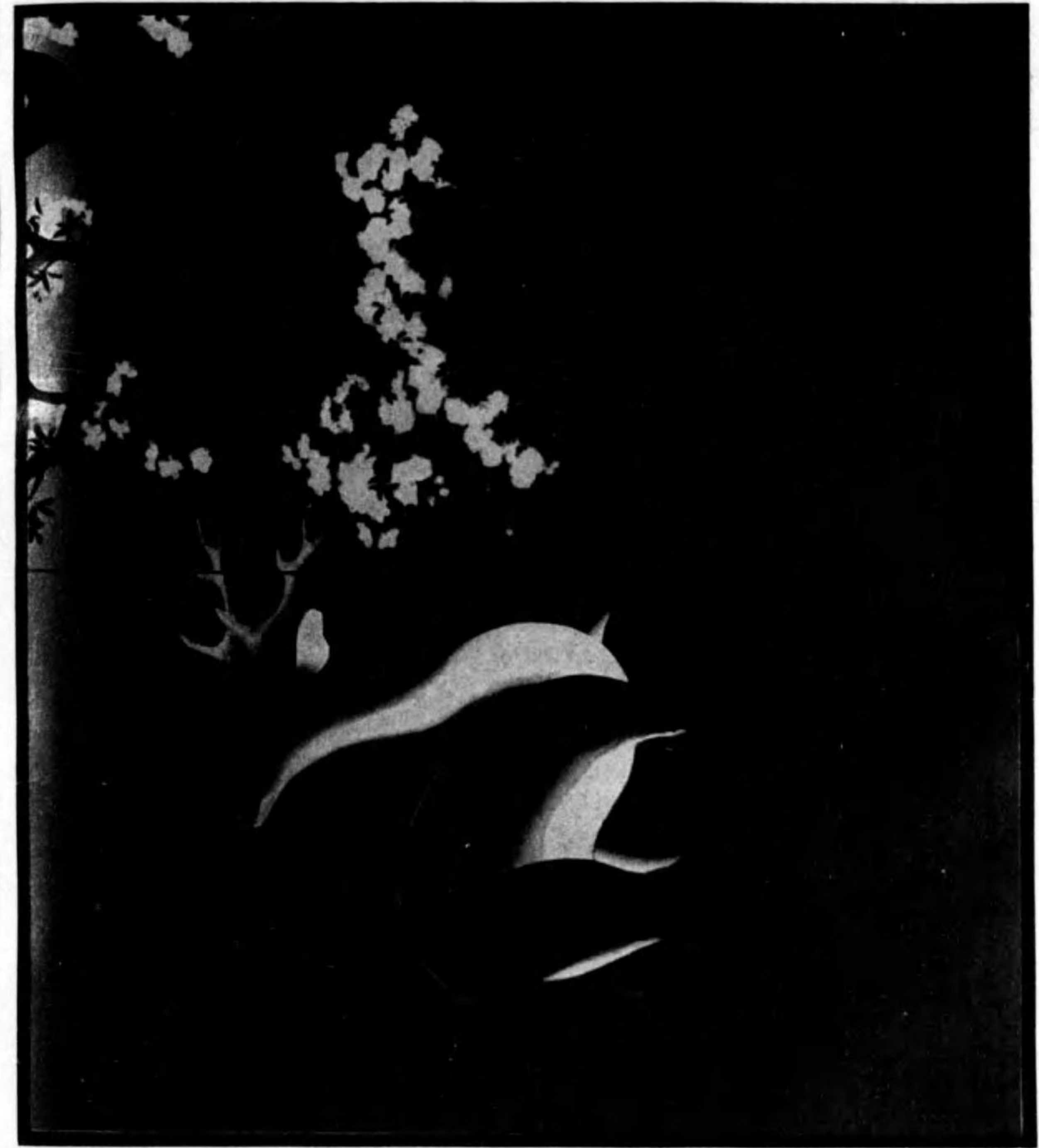
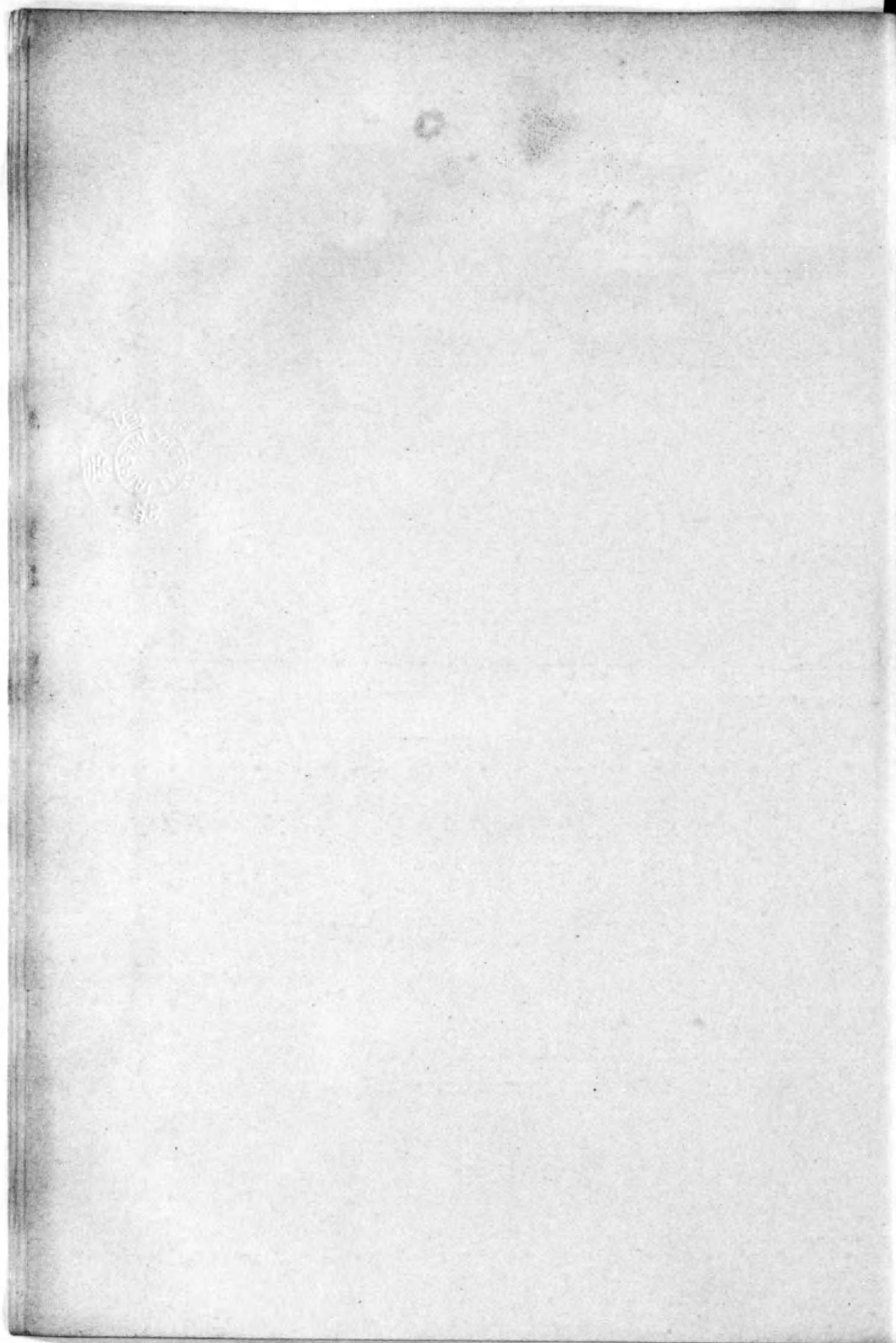
起光佐士



狩野探圖



7 虎



尾形光琳

鹿の尾



山水

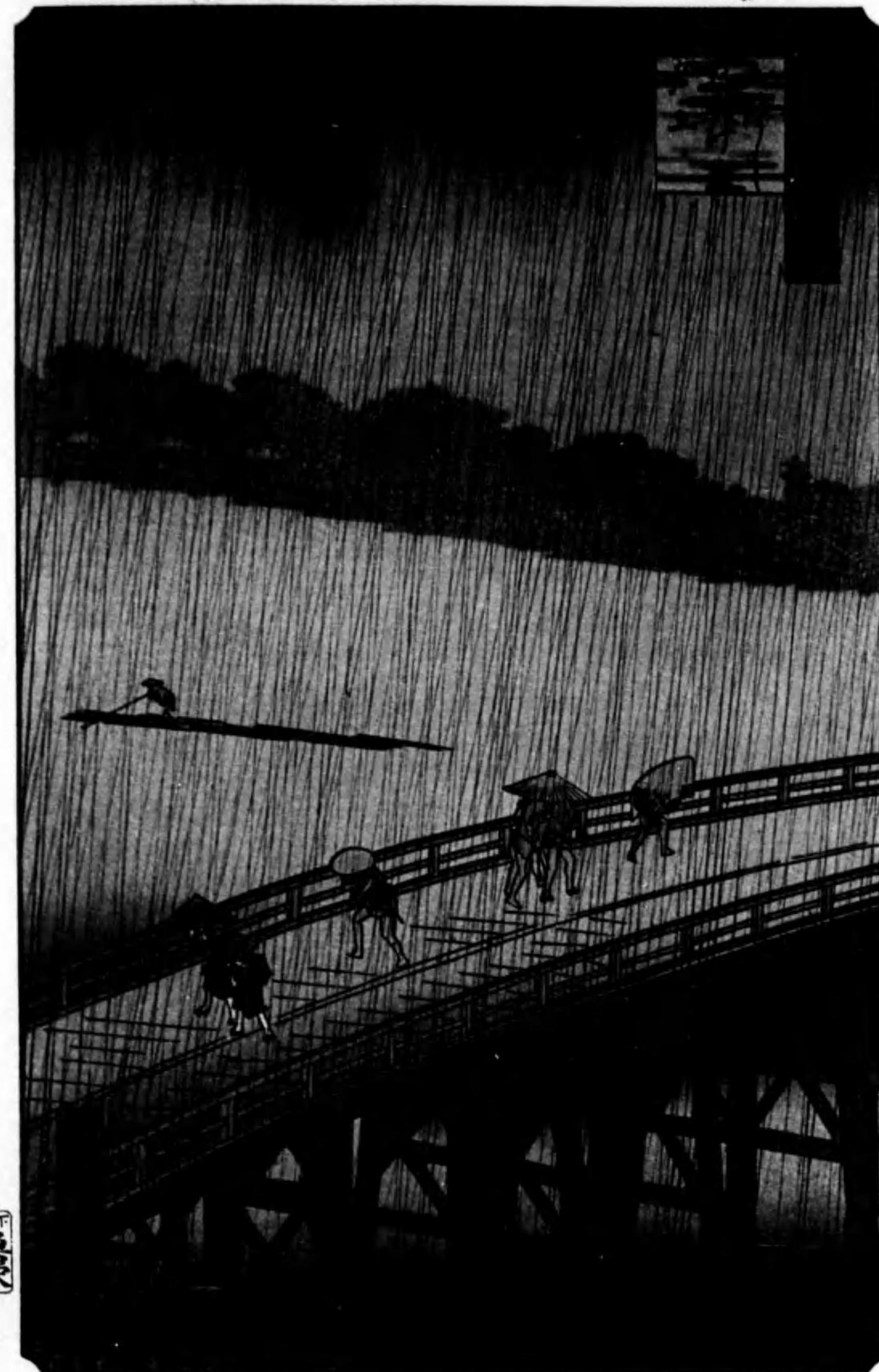
與謝熊村



松下鯉魚圖

圓山應舉

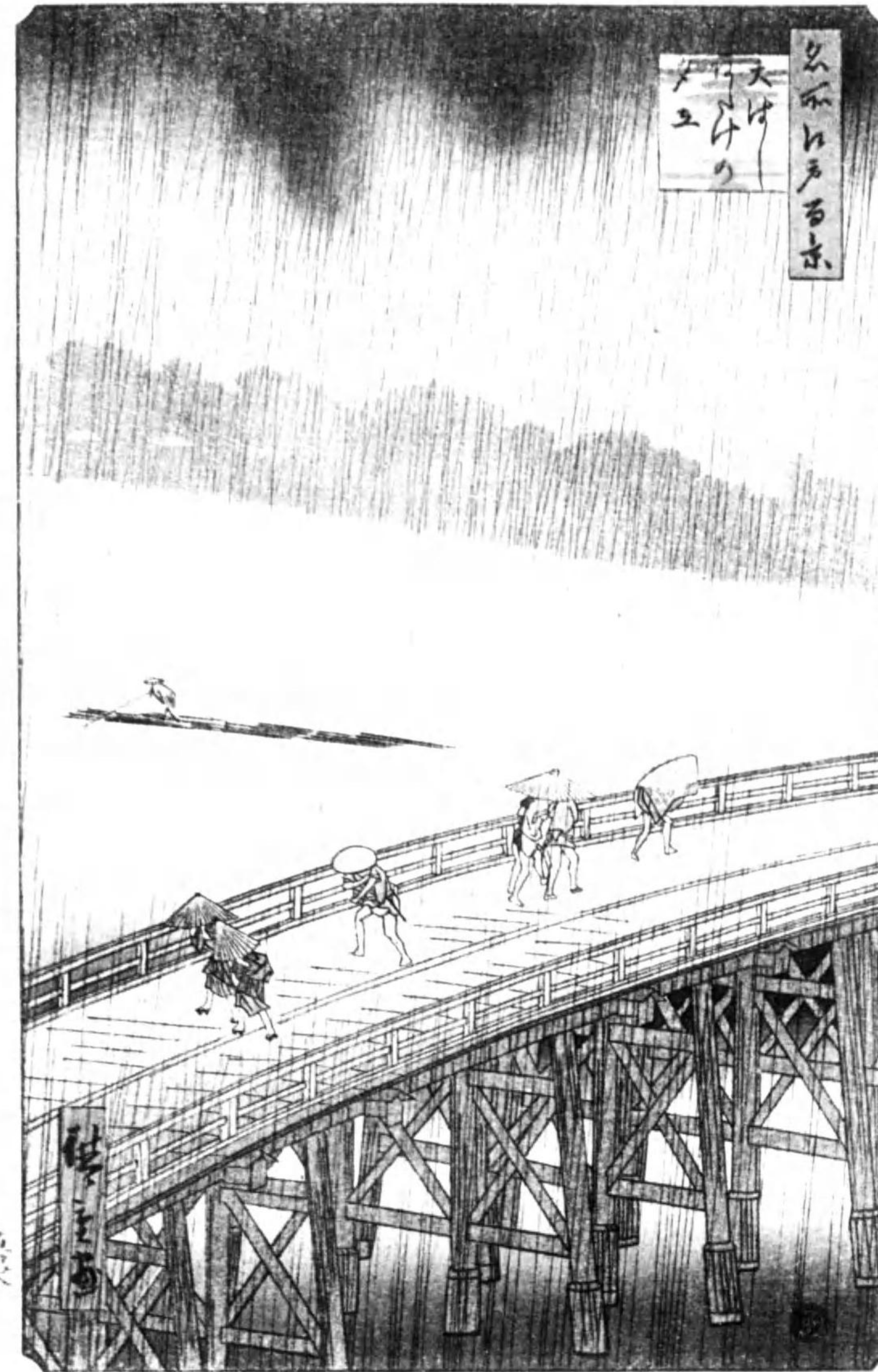
10



安藤

10 大橋の夕立

安藤 廣重





11 虎溪三笑

橋本雅邦



春雨

横山大觀



秋山晚晴

竹内栖鳳



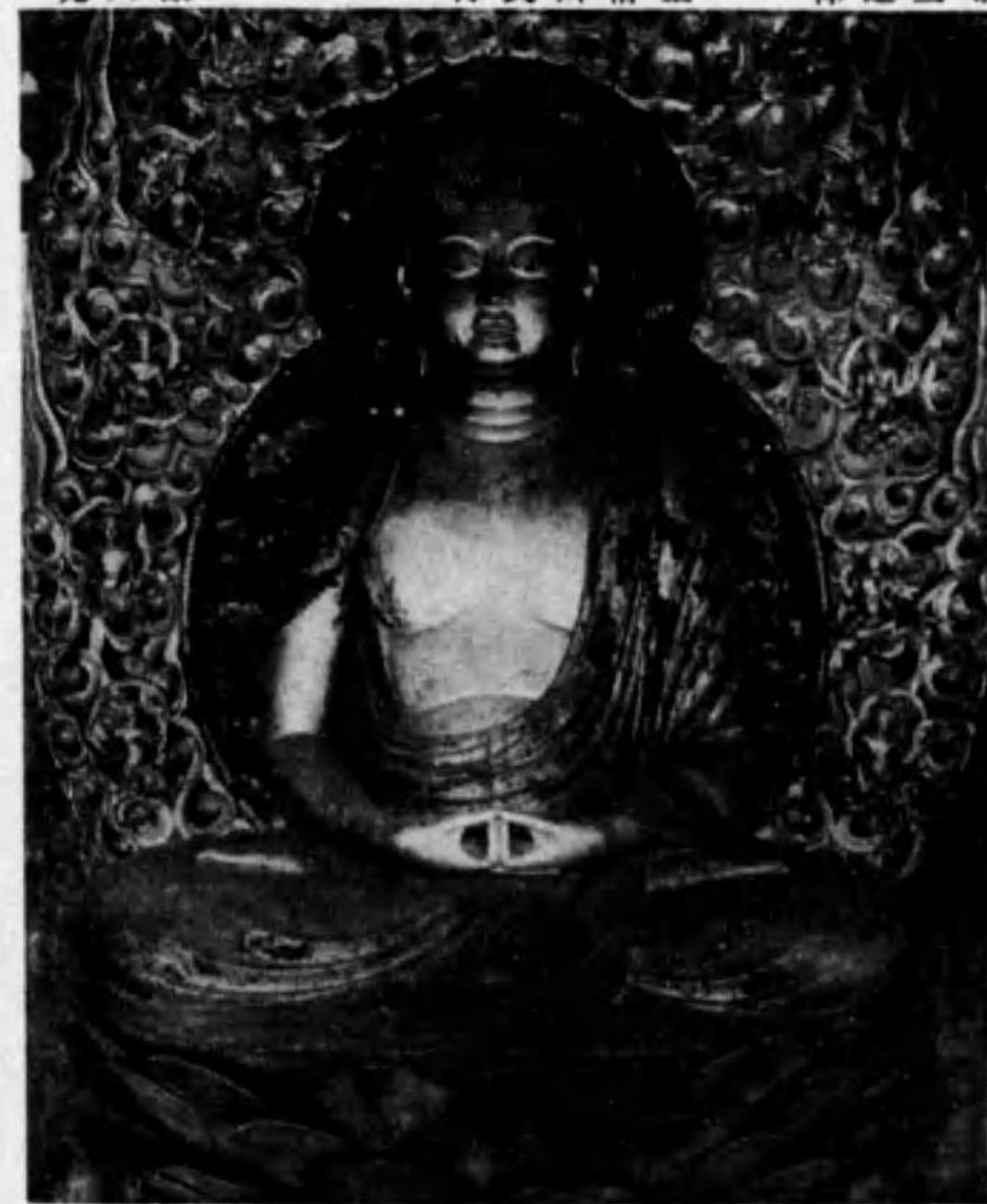
梵天像



傳良辨僧正

釋迦三尊像

止利佛師



阿彌陀像

傳定朝

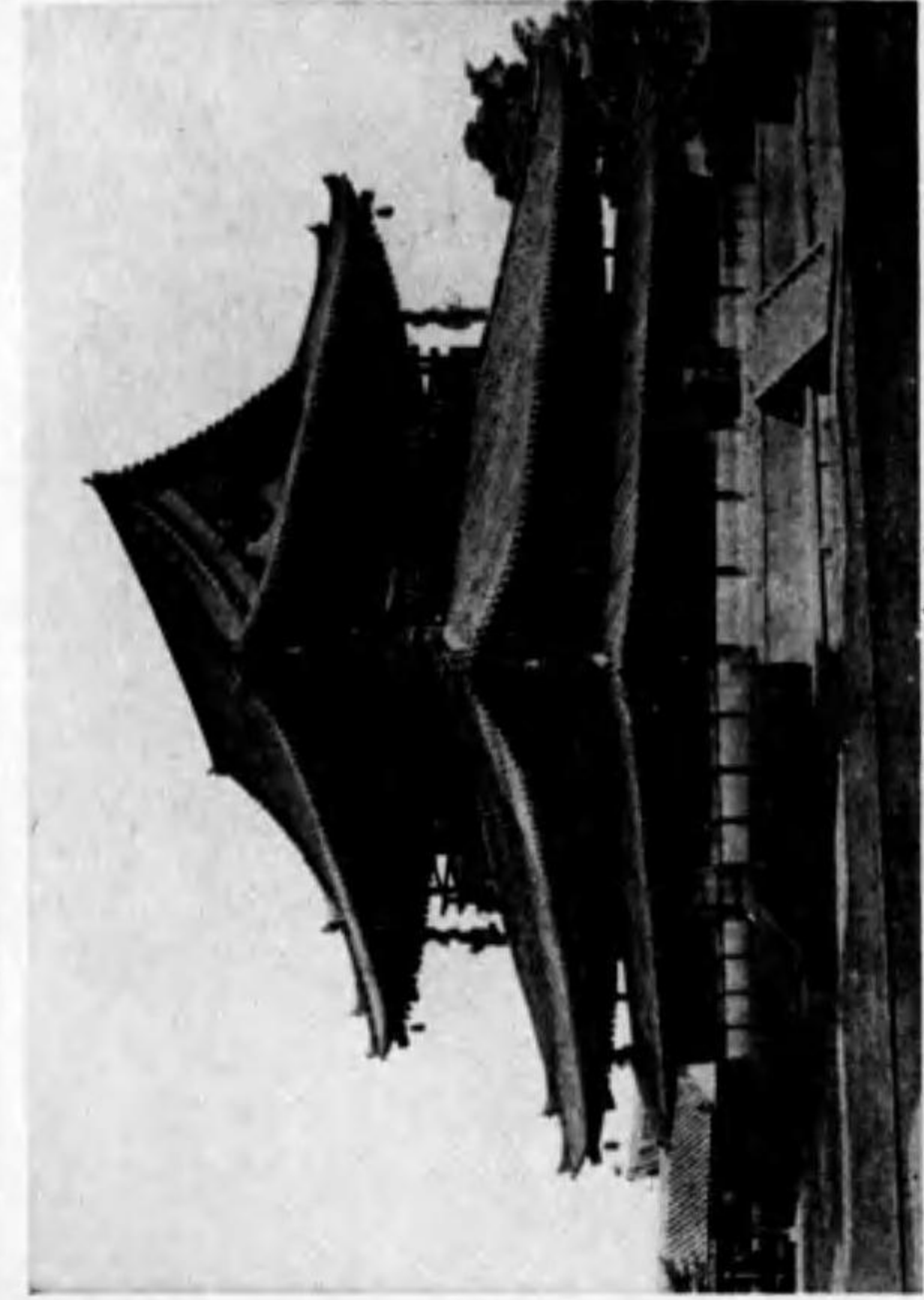


金剛力士像

運慶・快慶



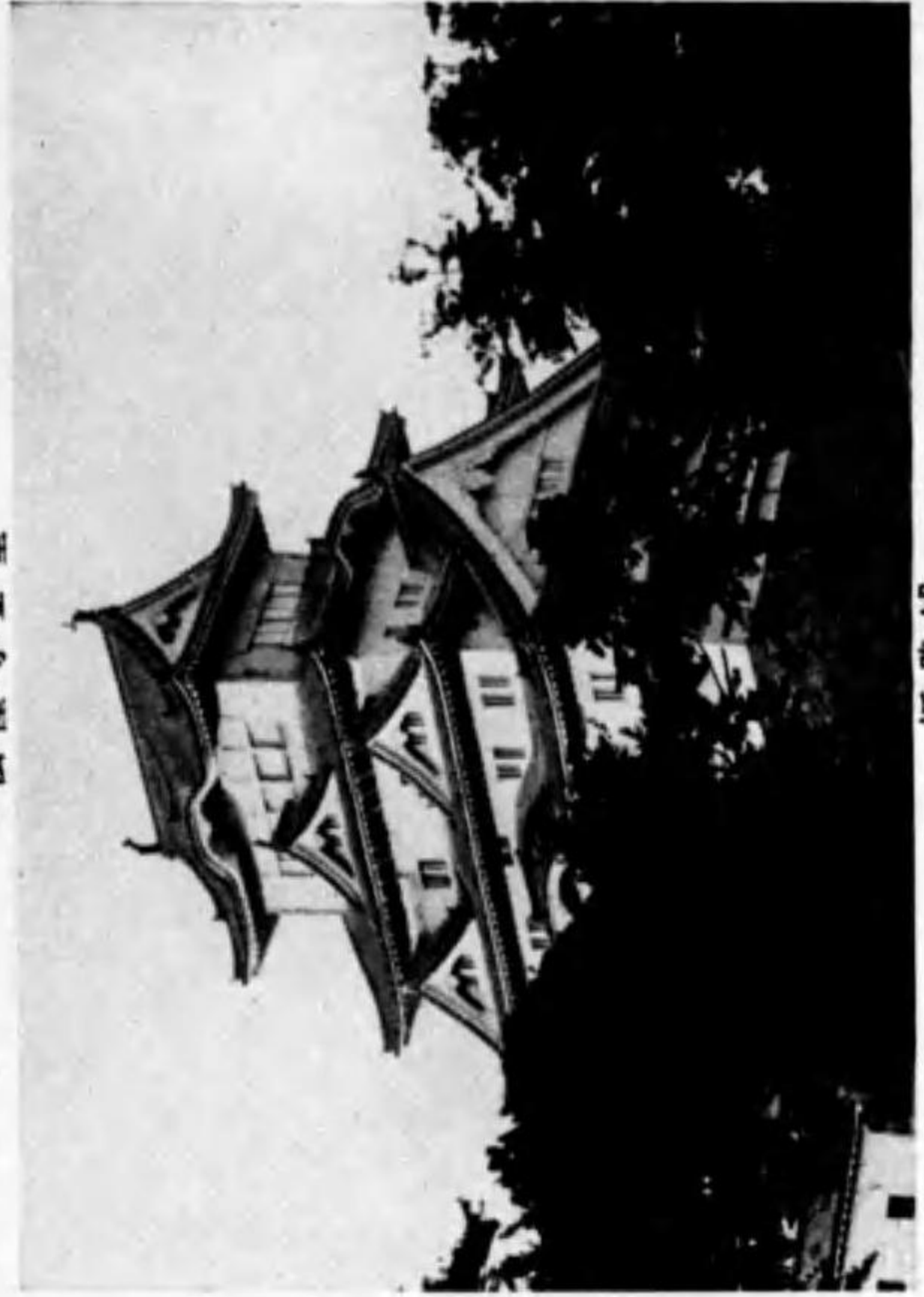
春日神社



法隆寺金堂



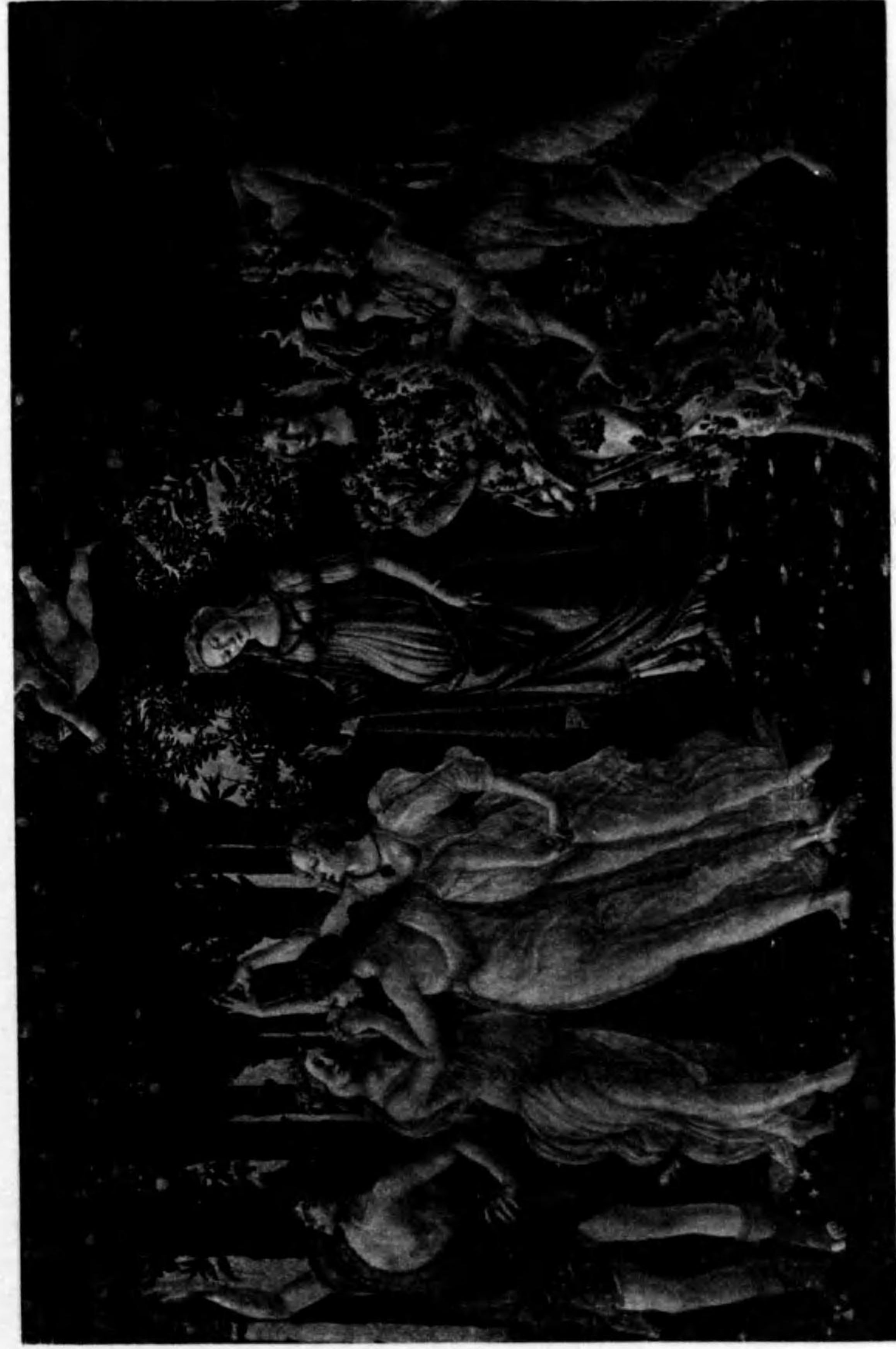
金剛

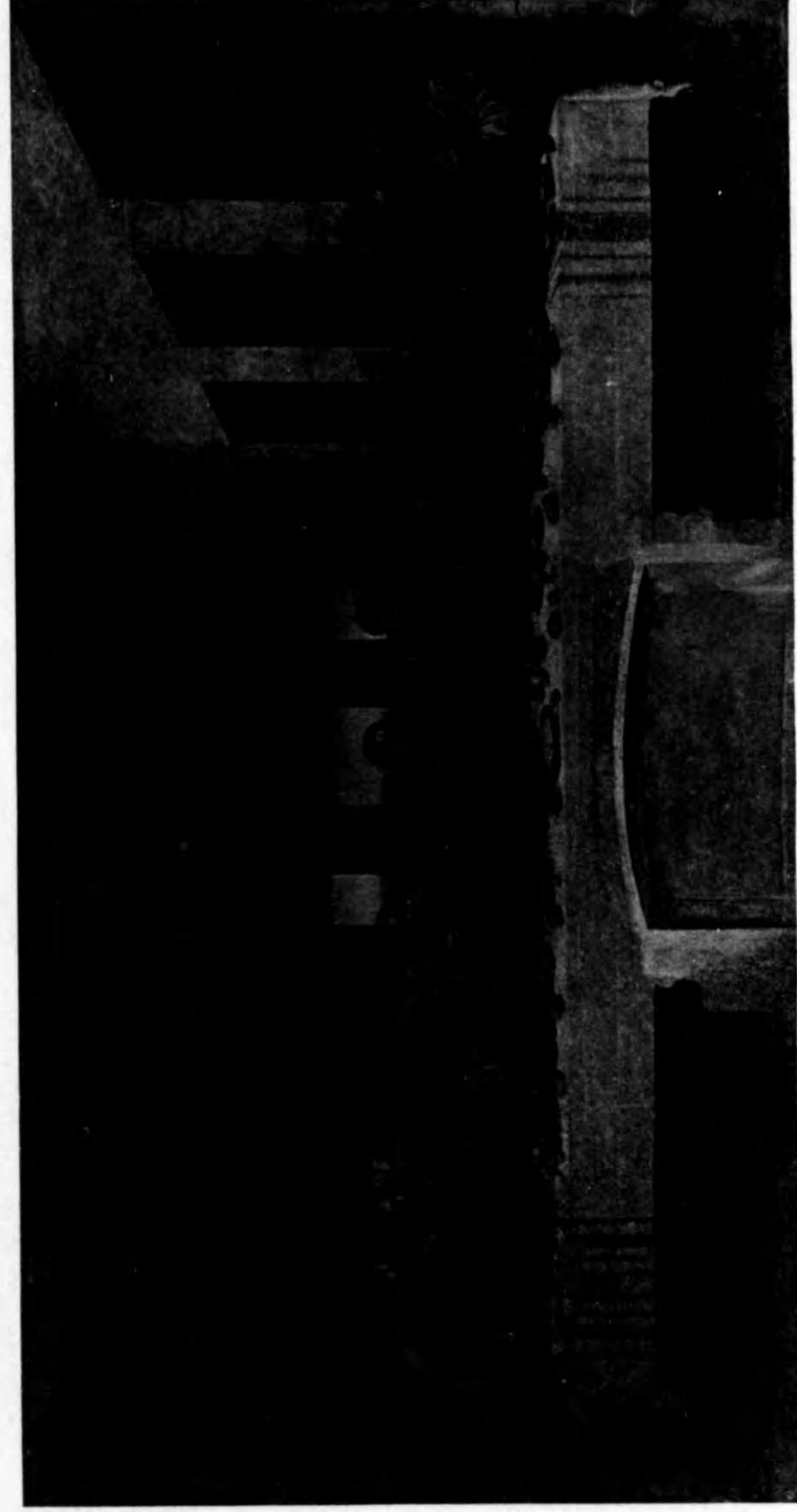


姫路城



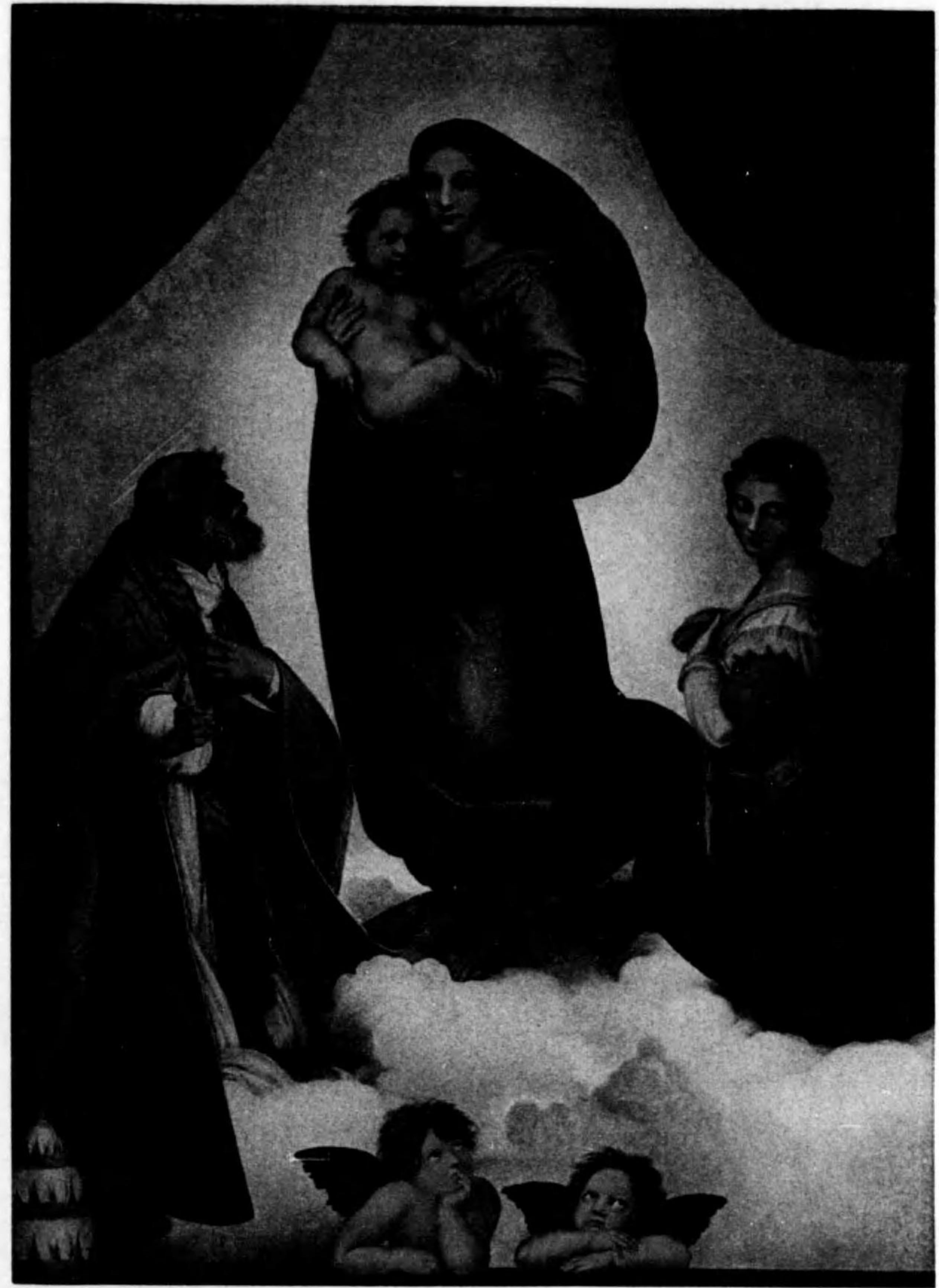
15 菓子器(尾形乾山) 唐織裂 十二稜銀鏡 華盤 德利(酒井田柿右衛門)

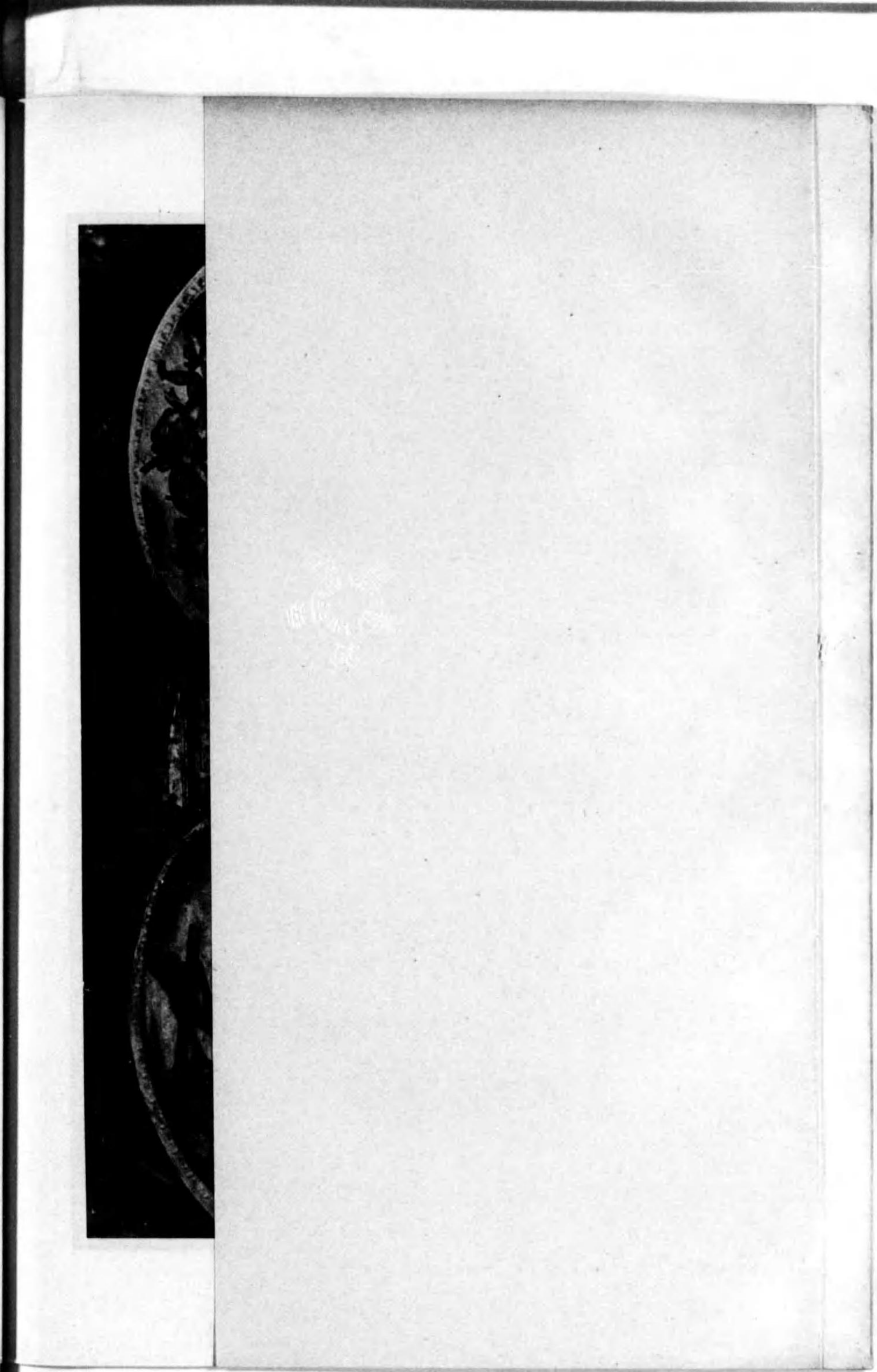
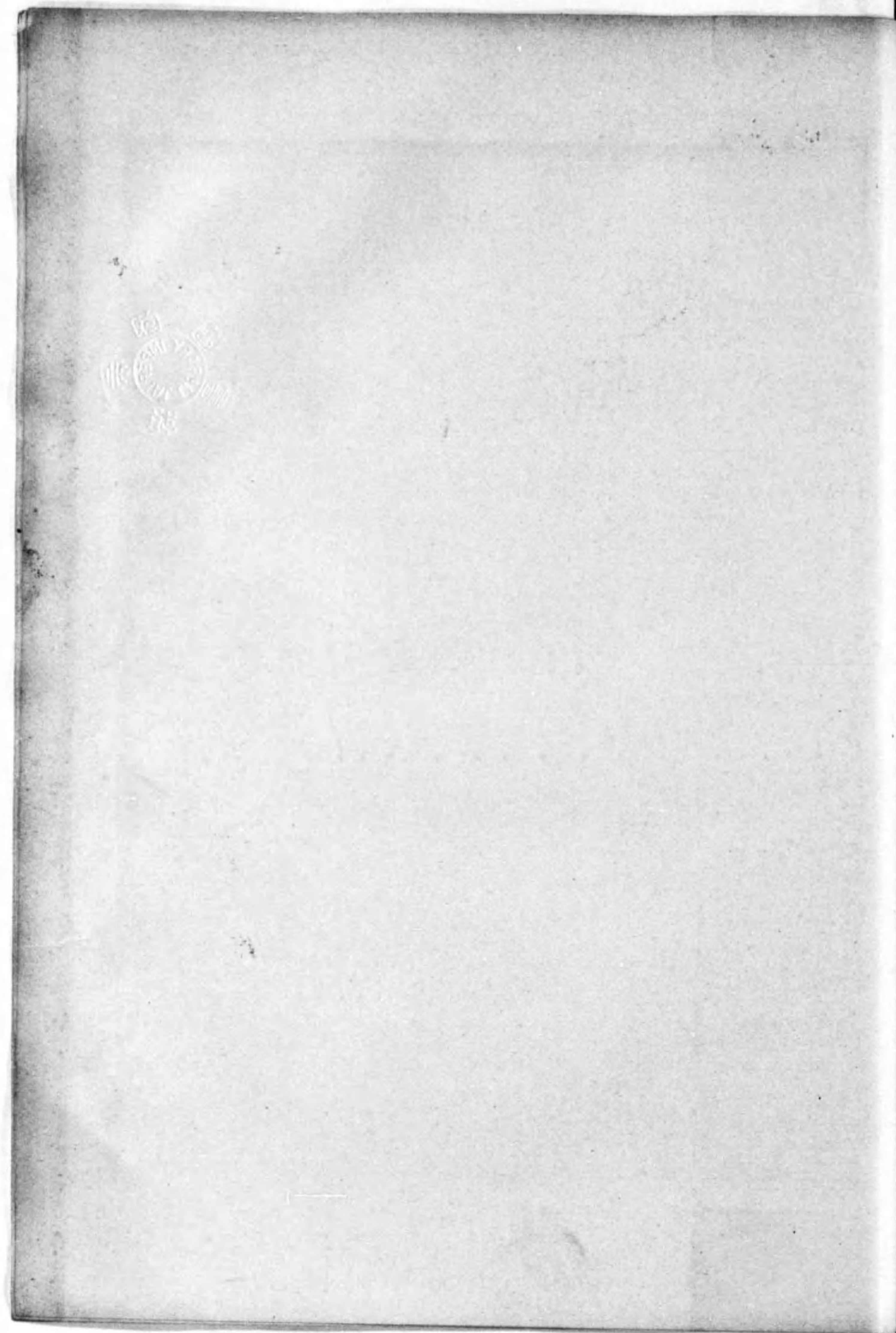




17 最後の晩餐

レオナルド

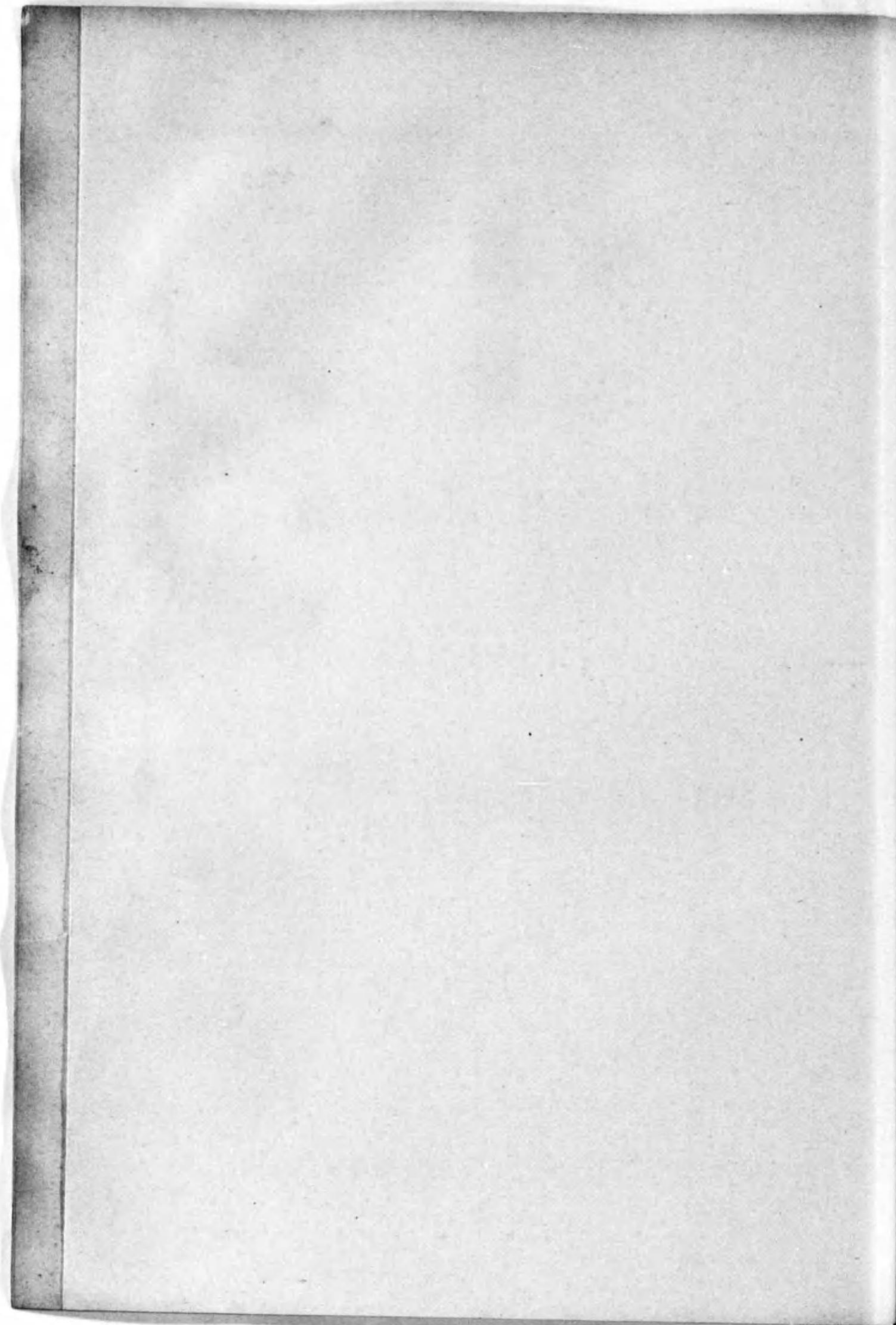






ミケランジェロ

19 最後の審判





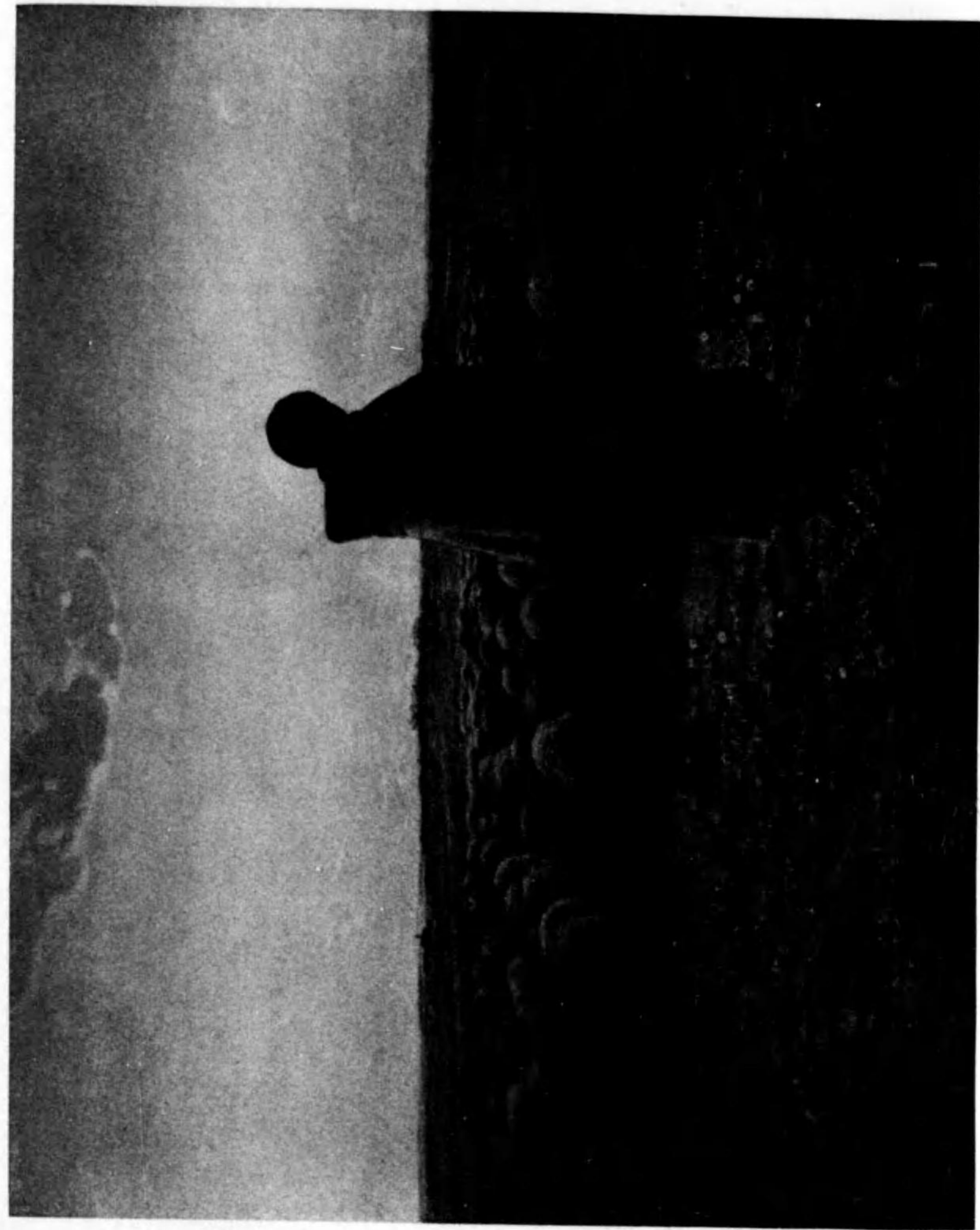
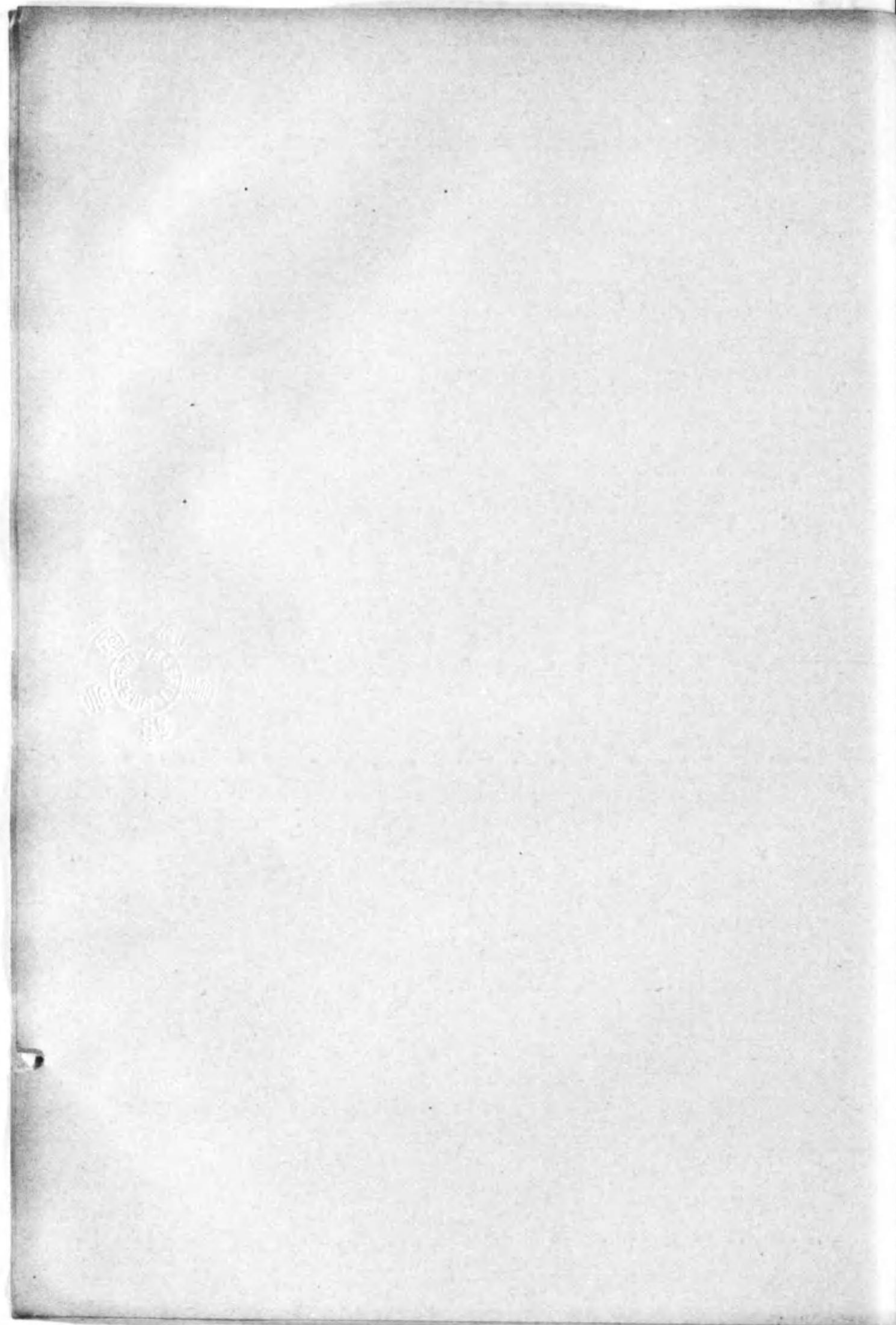
21 聖なる家庭

レムブランド



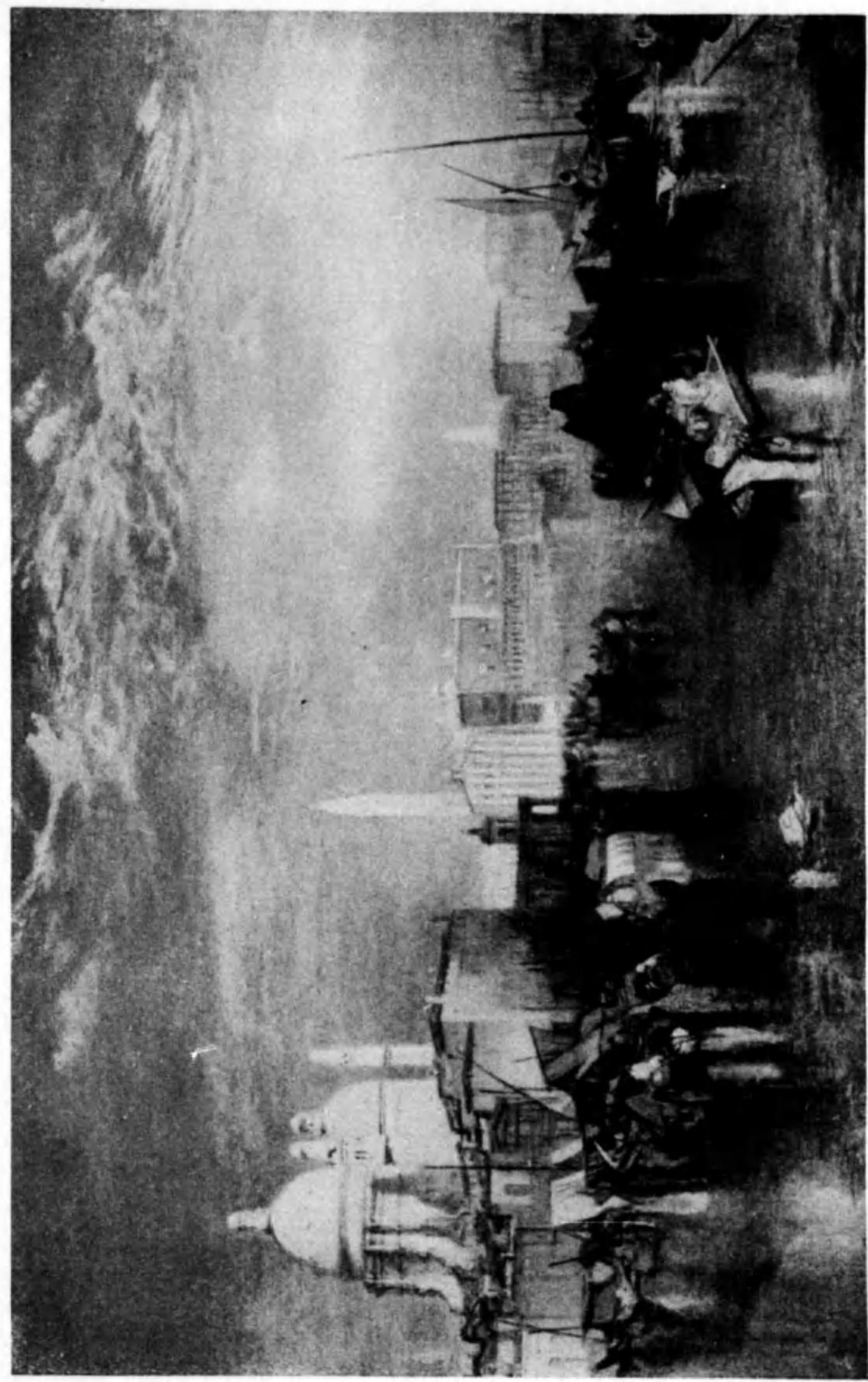
22 バリカード

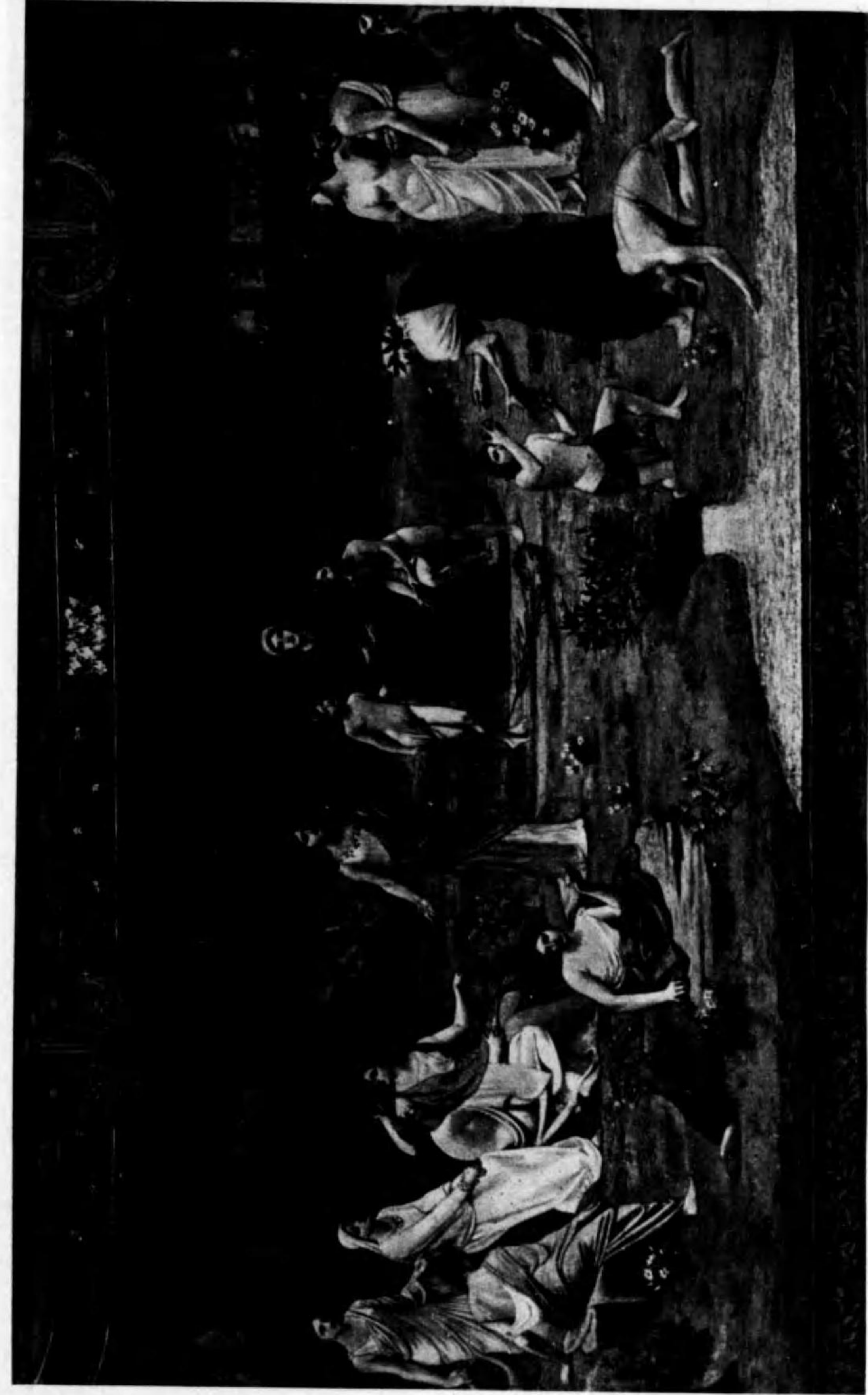
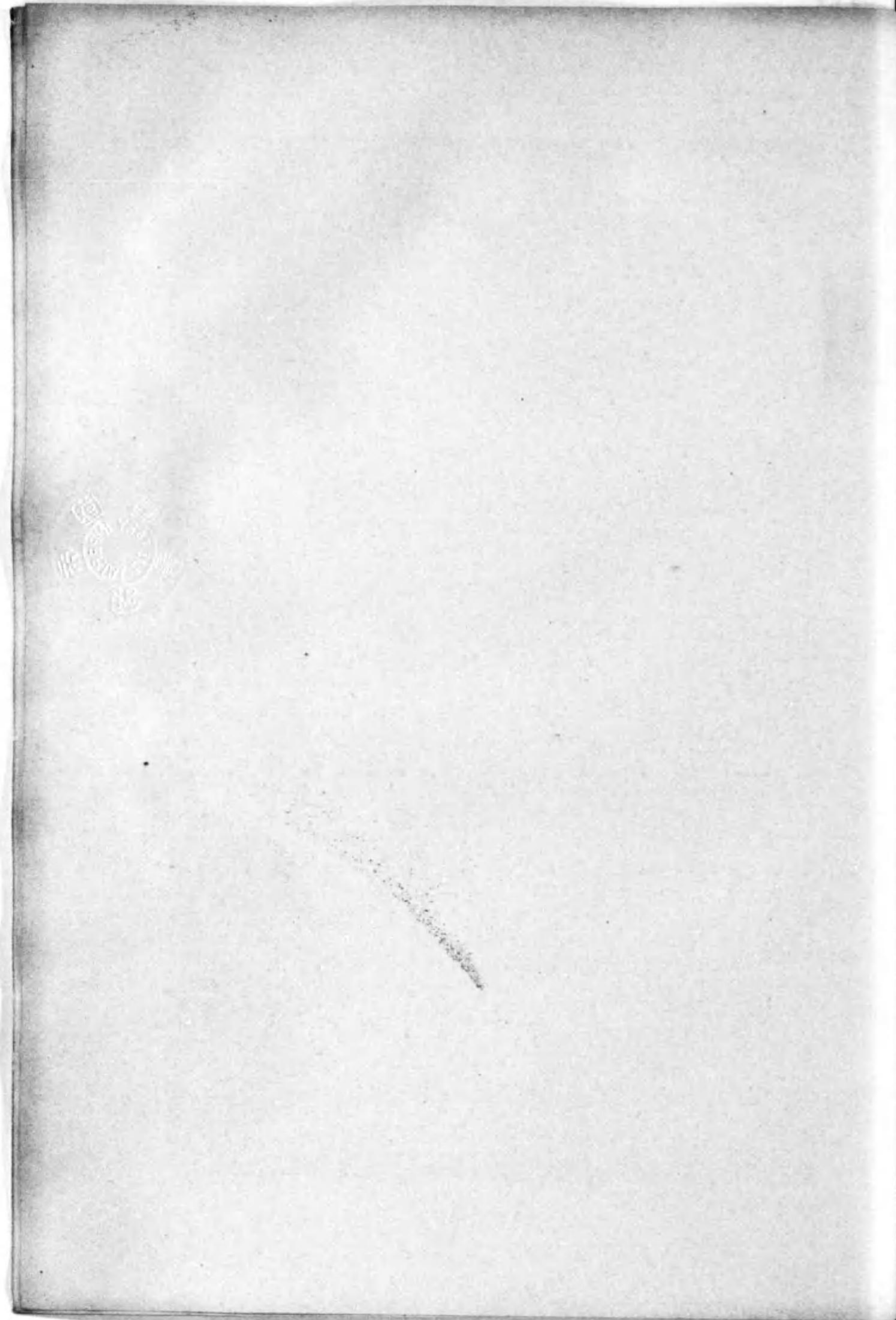
ドラクロア



23 牧羊婦

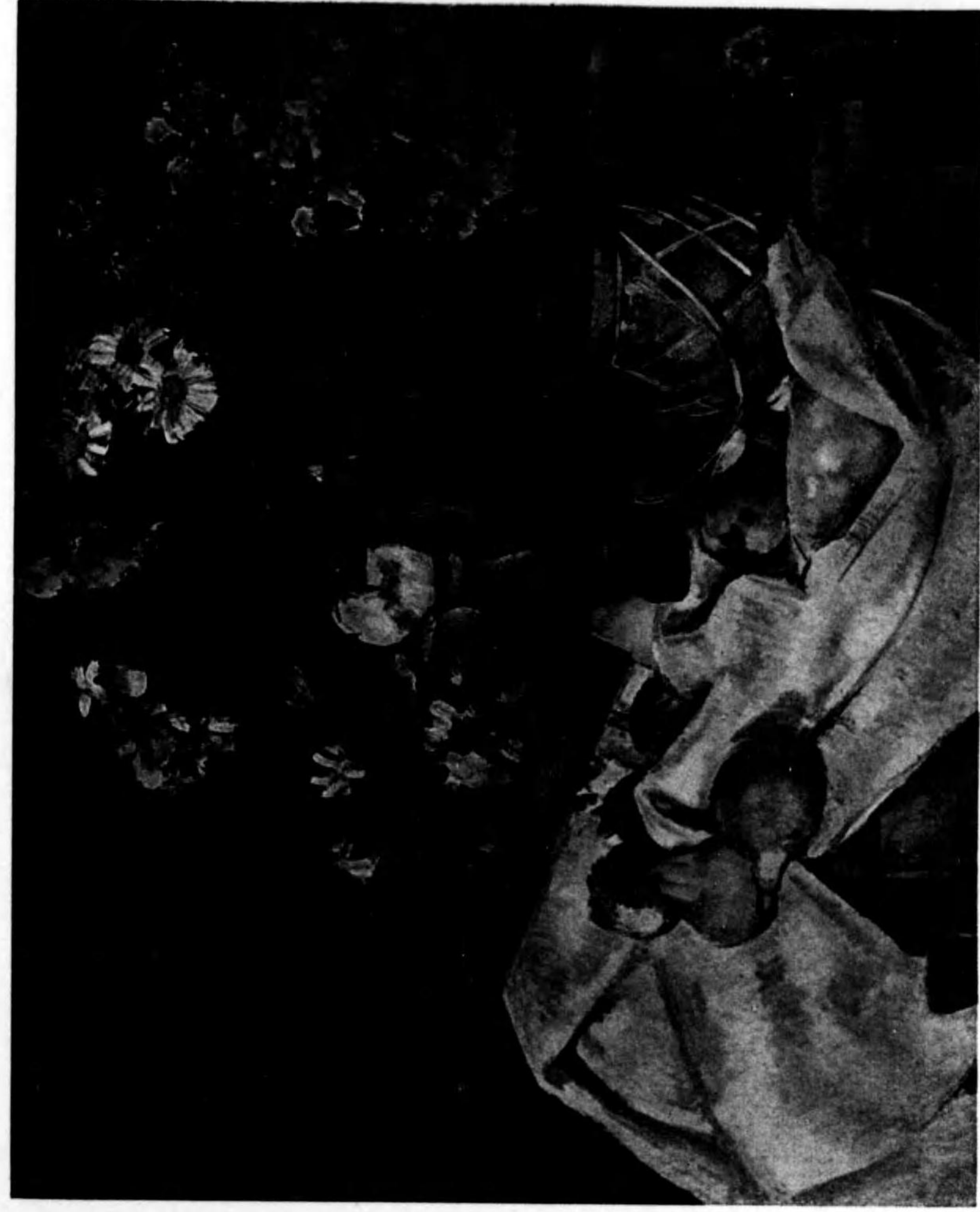
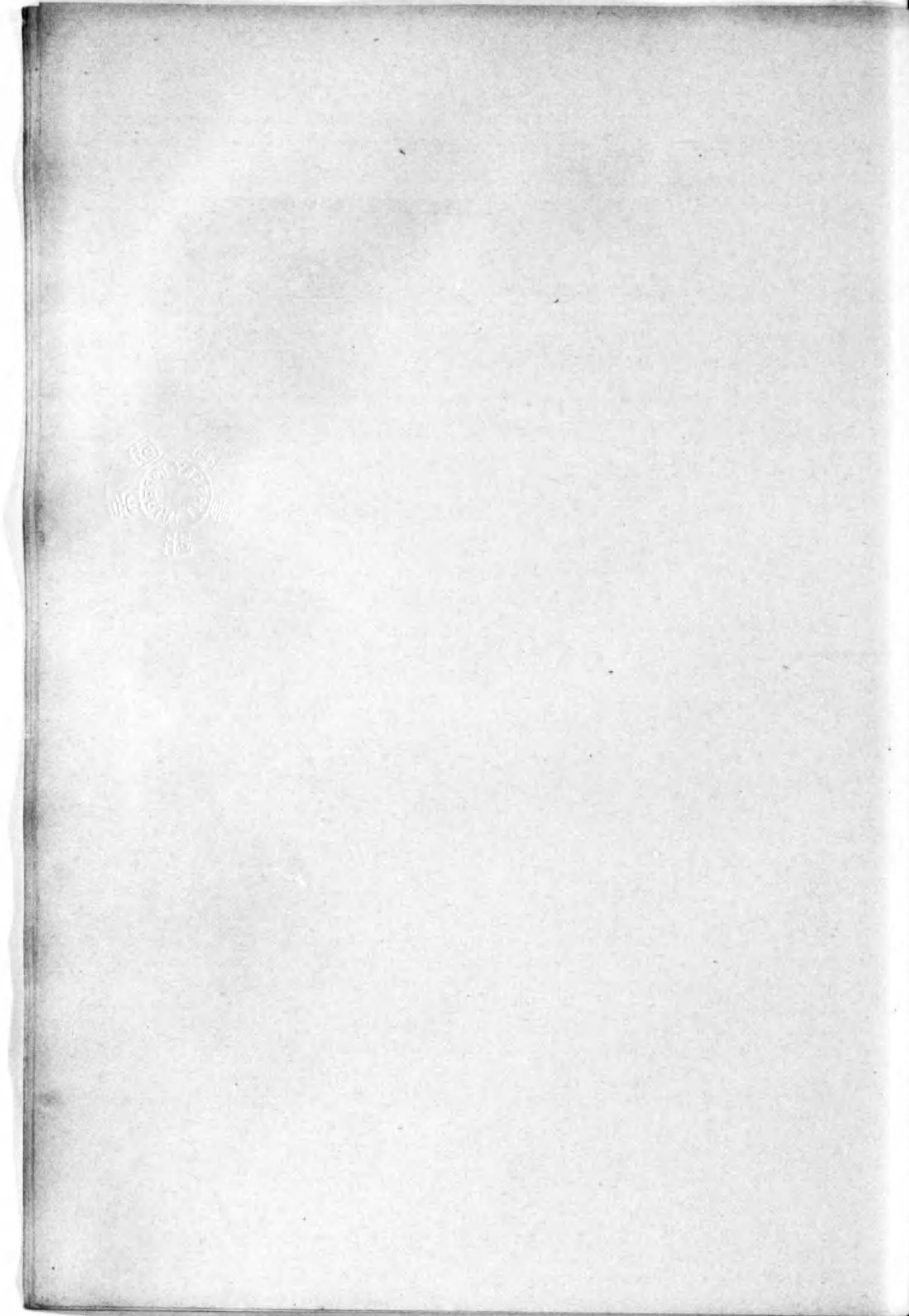
「
」
」

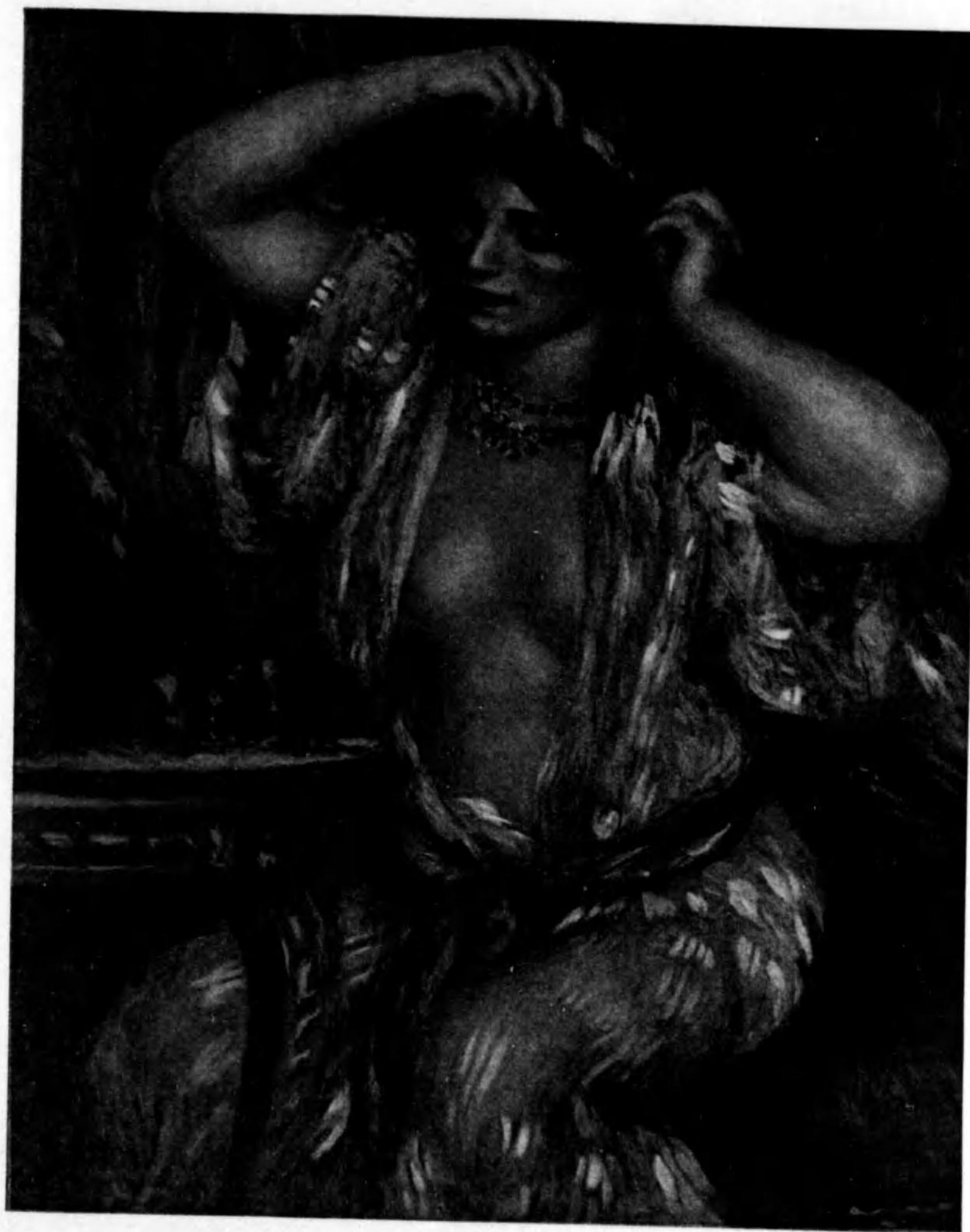
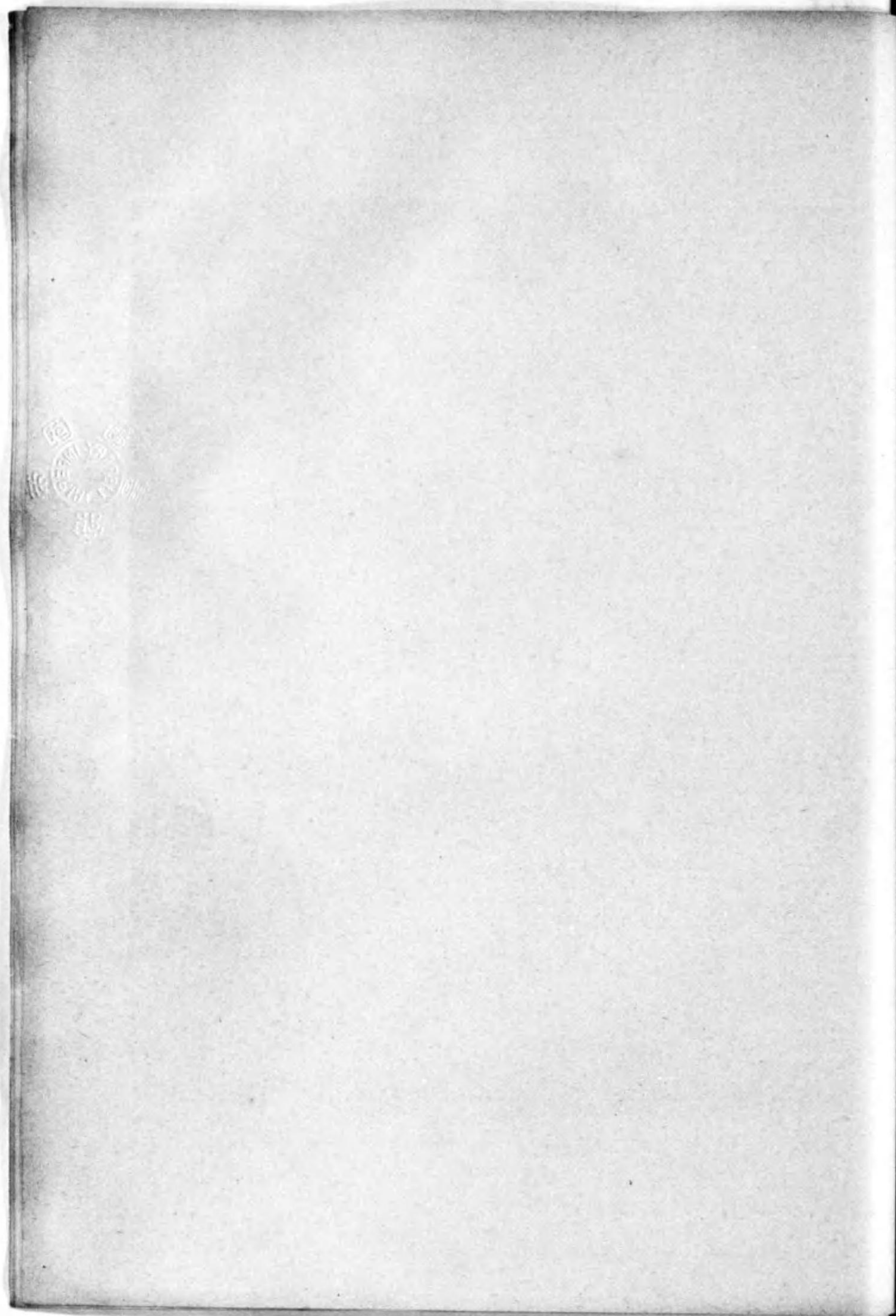




25 藝術と科学

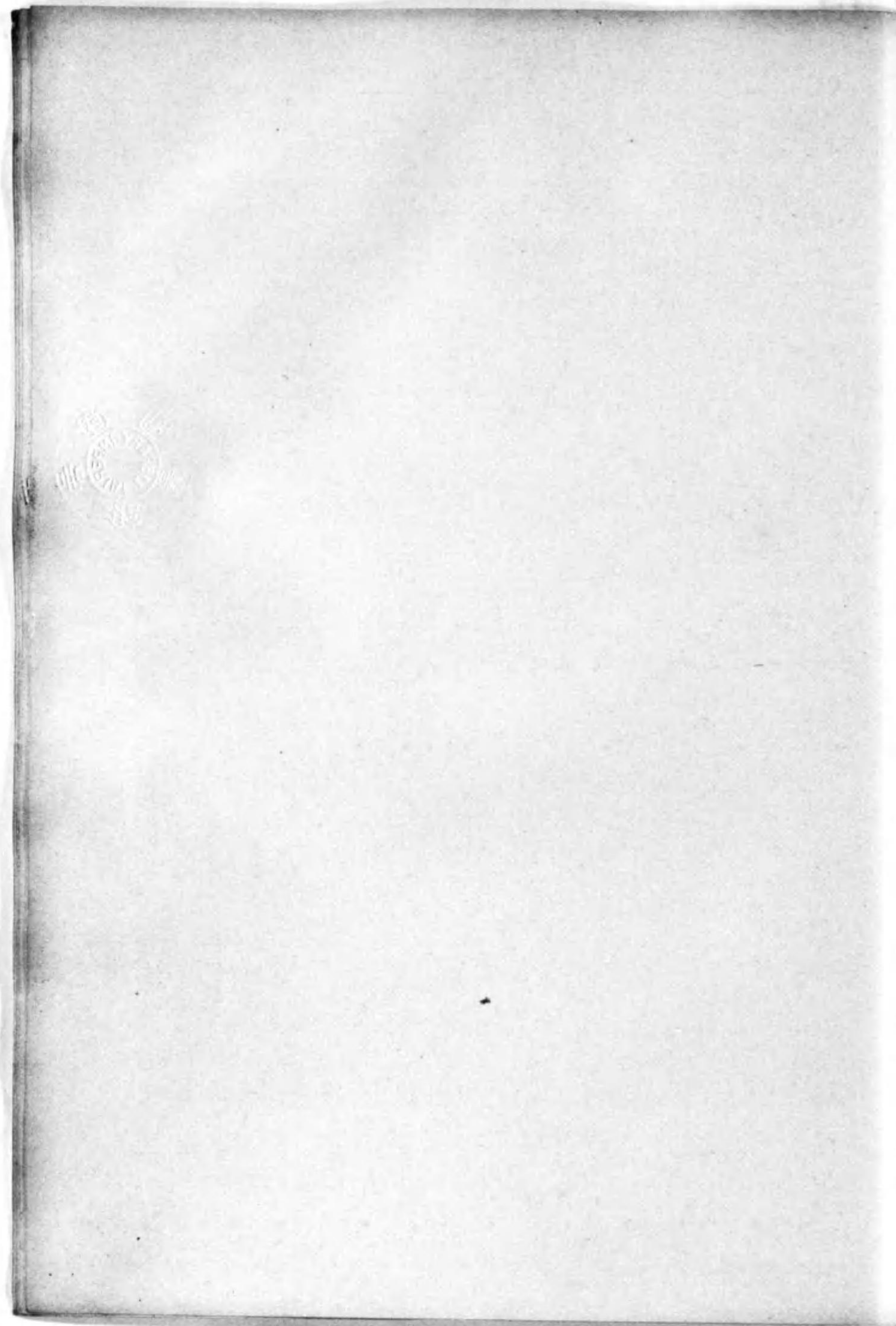
シャヴァンヌ



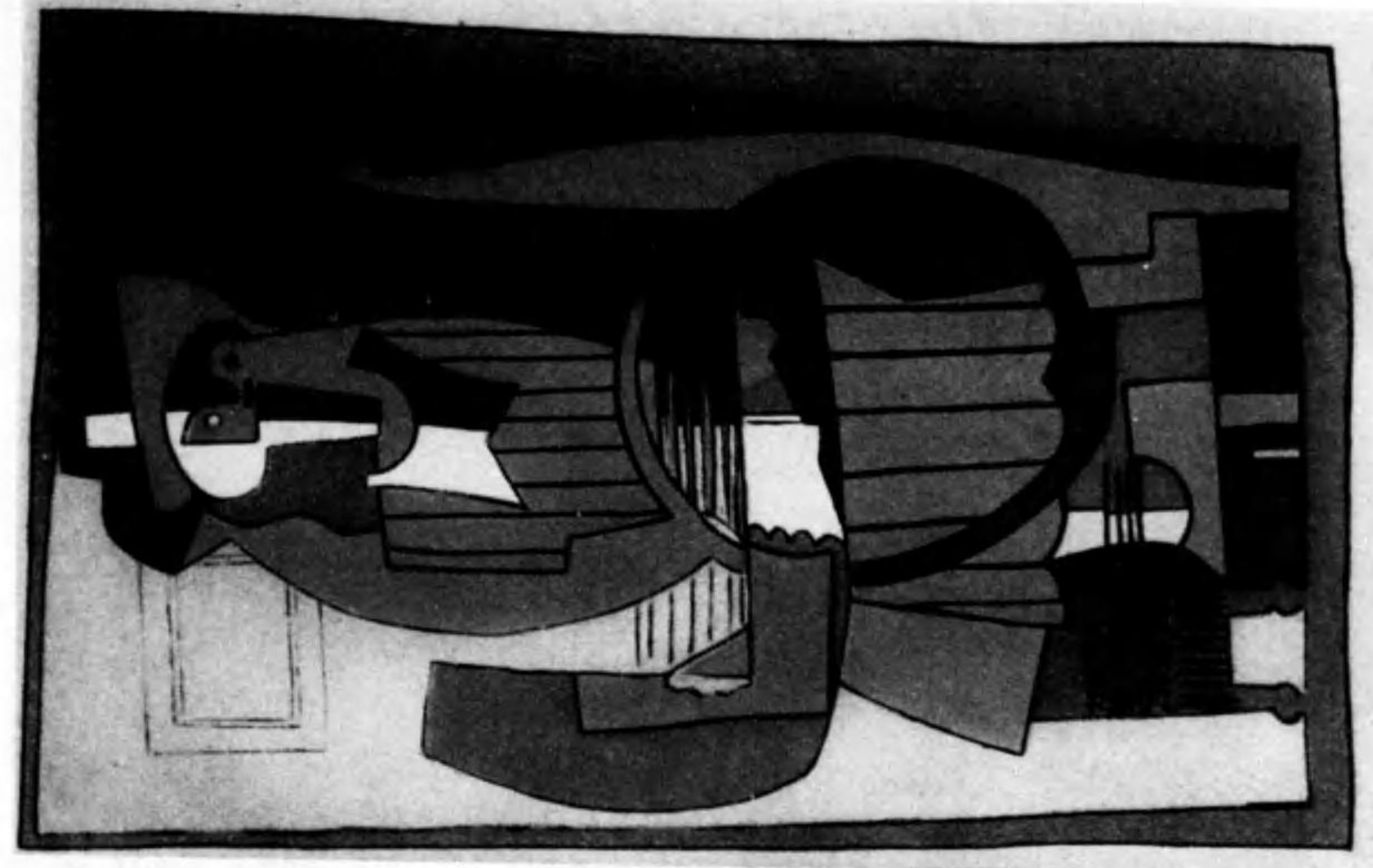


27 鏡の前

ルノワール



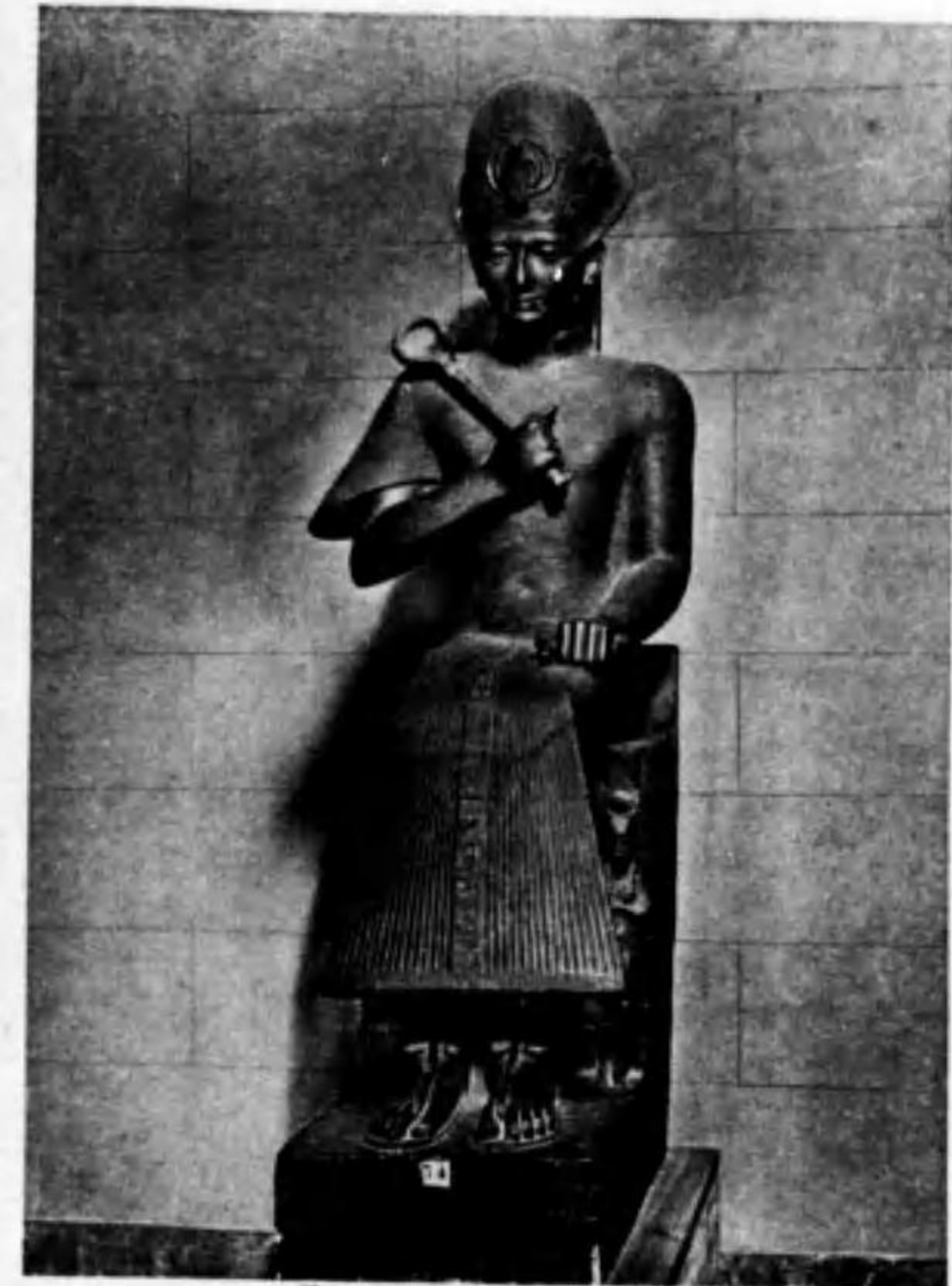
若い水夫



人物



圓盤投げ ミロン



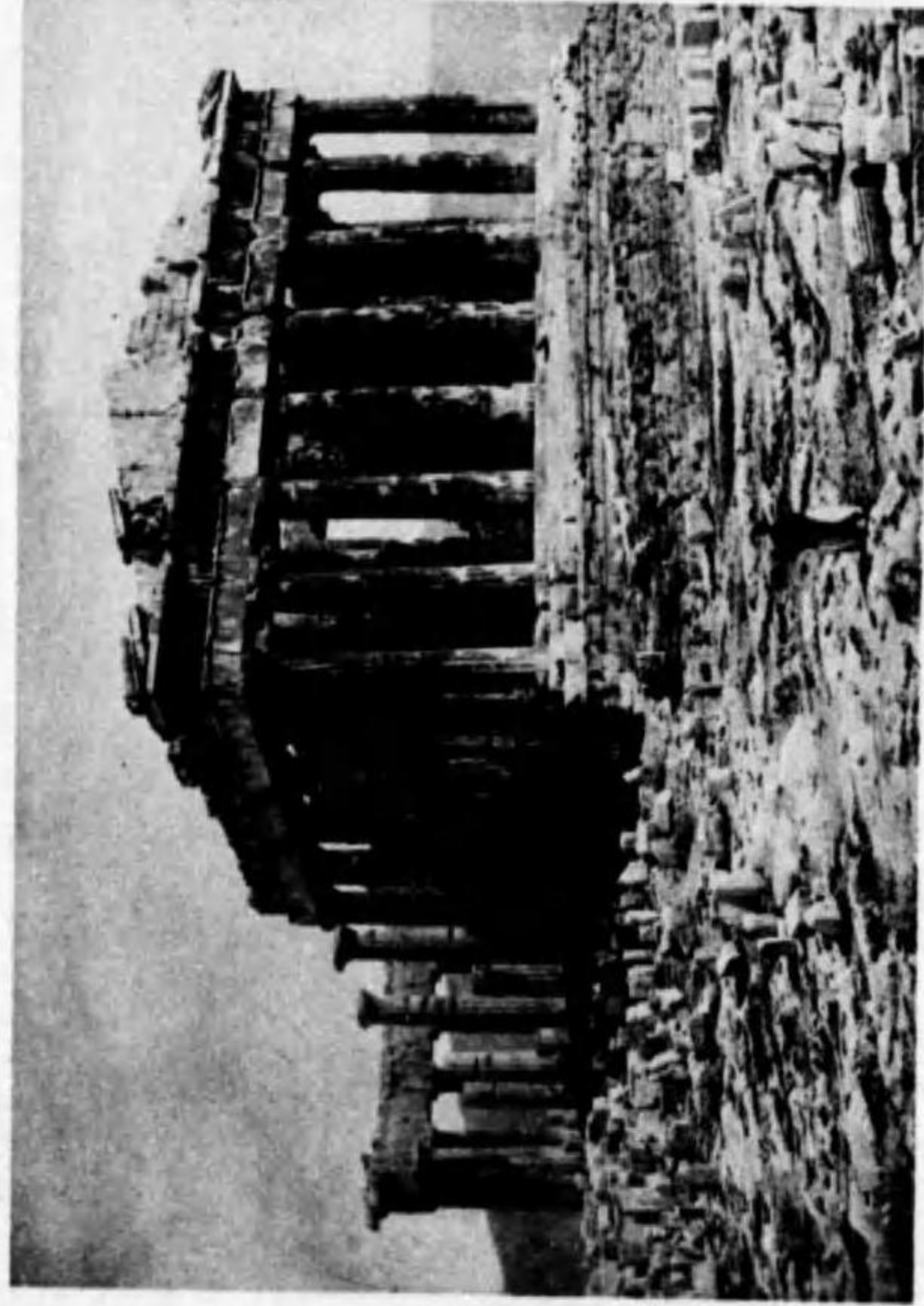
ラムセス二世像



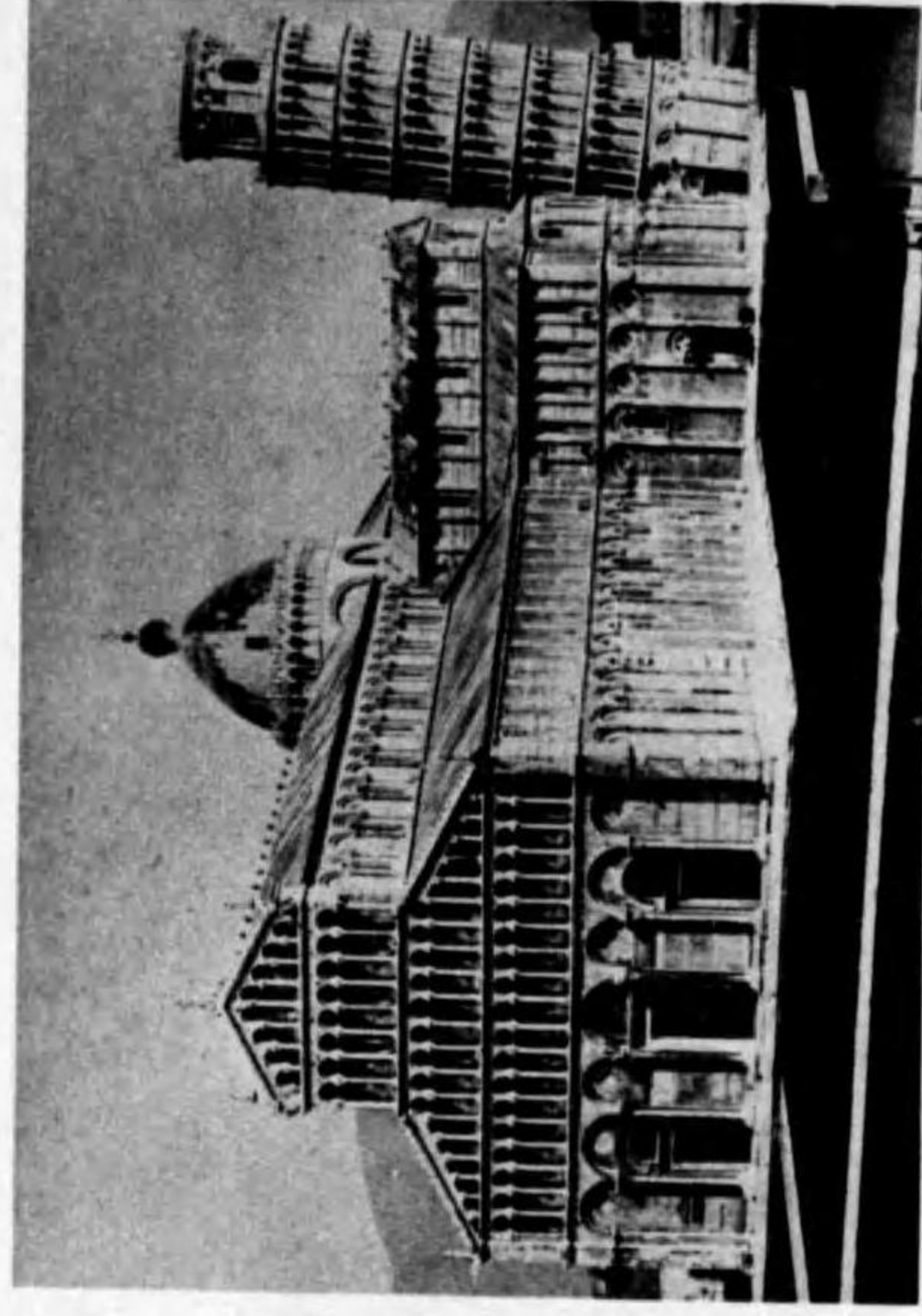
モーゼ像 ミケランジェロ



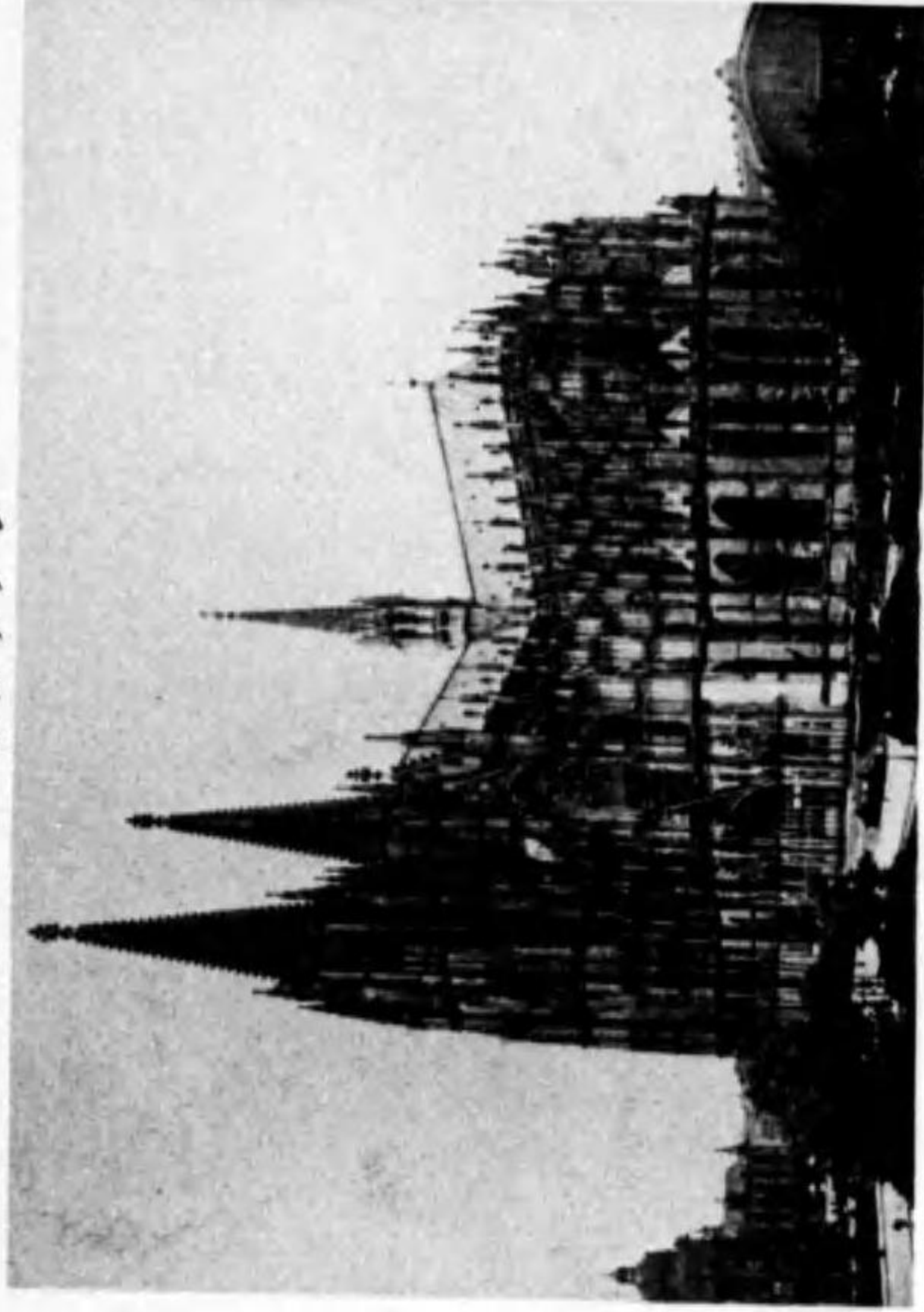
考へる人 ロダン



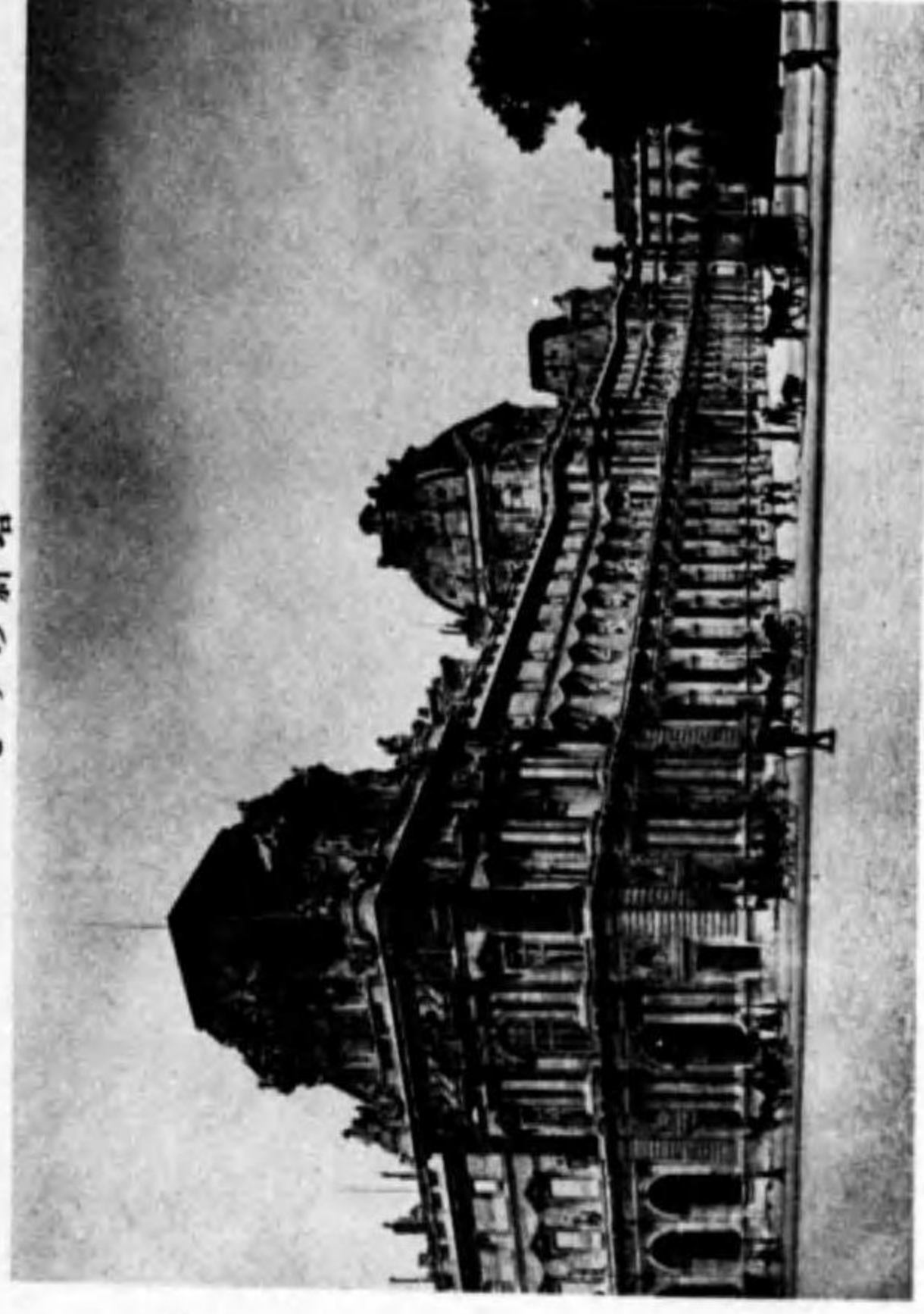
パルテノン



ピサの斜塔



ケルンの寺院



ルーヴル

美術史大要

美術史大要

古代美術

石器時代 人類はすでに、數萬年前の太古に美術を製作してゐる。即ちまだ金属を知らなかつたので、専ら石で粗末な器具を造つて使用した。この時代を石器時代といふ。かれらは、石の及物にて石、角、骨などに巧みな彫刻をなし、



アルタミラ洞窟壁画

また、洞窟の壁などに美しい繪畫を描いた。やゝのちの時代には巨大な石を積んで建築の如きものや、記念碑の如きものをも造つた。またその頃より焼物(土器)なども製した。

エジプトとメソポタミヤ ついで、今より七八千年前の頃より、エジプト、メソポタミヤな



ピラミッドとスフィンクス

どに、特に優れた美術が起つた。殊に、エジプトでは、數千年の長い期間に巨大なピラミッドやスフィンクスが造られ、石の大神殿が築かれ、また精巧な彫刻や、工藝品などが製作されて、今もその遺物に人を駭かしてゐる。メソポタミヤ地方にても、種々の美術的製作が行はれ、ついでバビロニア時代にまで及んでゐる。

ギリシヤ 一方、ギリシヤにも早くから美術



ミロのヴィナス

あり、紀元前四百五十年頃、アテーンはその中心となり、大彫刻家フィディヤスなどあり、アクロポリス丘のバルテノン神殿や、それを飾つた美しき彫刻の如きものを遺してゐる。そして、アレキサンダー大帝の遠征につれて、美術は廣く世界の各地に大なる影響を及ぼしギリシヤはあらゆる美術の發源地とさへ思はれるに至つた

ローマ ローマが勃興して、紀元前後より帝國となるや、パンテオン、コロッセウム、凱旋



コロッセウム

門、トラヤヌス柱などの、巨大な造營物がつくられ、またギリシヤ風の彫刻も行はれた。建築にはモザイクによる繪模様が盛んに用ひられた。

インド インドにては、釋迦の出現後、數百

年にして阿育王の時より、佛堂、佛像等を主とする美術あらはれ、それにはアレキサンダー大帝の遠征によるギリシヤ美術の著しき影響もあつた。サシテイの大塔、エルーラの寺殿、アジヤンターの壁畫など、最も有名である。

年にして阿育王の時より、佛堂、佛像等を主とする美術あらはれ、それにはアレキサンダー大帝の遠征によるギリシヤ美術の著しき影響もあつた。サシテイの大塔、エルーラの寺殿、アジヤンターの壁畫など、最も有名である。



龍門大佛仁王

佛敎美術はセイロン島、ビルマ、ジャヴァ諸島などにも擴がつたが、殊に支那に榮え、更に朝鮮を経て日本に傳はり、そこで最も優秀な、美術史上の誇りとなつて華さいた。

支那 支那には、佛敎の傳來に先だち、早くから美術があつたが、そこへ佛像、佛寺の技法傳はり、唐の頃までに、すぐれた彫刻などができた。雲崗、龍門山などの石刻は最も有名である。金、玉の工藝も早くから發達した。繪畫も由來頗る古く、漢代すでに名畫家があつた。

唐の末期よりは最も發達し、宋、元に及び、



鳩 (徽宗皇帝)

畫風も種々に岐れ、南畫、北畫の稱も生じた。宋の徽宗皇帝、牧溪、夏珪、元の倪雲林など大家といはれるもの、あげて數へがたい。しかし、支那には古代の建築の遺物甚

だ少く、彫刻も唐以後、見るべきもの稀である。たゞ、工藝、殊に陶磁器の如きは、世界に卓絶する優良なるものを産した。要するに、支那の美術は日本に影響すること最も著しかつた。

日本美術

日本(飛鳥・奈良) 日本には、古代すでに建築或は石器、土器、玉類、刀劍、土偶の如きものがあつた。佛敎の渡來につれて、美術は急激に發達し、推古天皇の頃、聖徳太子によつて、燦然たる光彩を放つに至つた。その今日に遺る代表的のものは法隆寺で、金堂、五重塔などの形美

しき建築物や極めてすぐれた數々の彫刻や、玉蟲厨子の如き工藝品やは、實に美術史上の至寶である。やゝのちの美術として、藥師寺東塔などあり、また法隆寺金堂壁畫は世界的傑作である。



玉蟲厨子

奈良時代に及んで、聖武天皇を中心とする佛敎の興隆あり、東大寺大佛をはじめ、多くの木彫が製作された。この時代の精華は正倉院に藏せられる御物數千點によつてうかがふことが出来る。中でも鏡、劍、樂器、織物などは驚くに足る優秀なものである。



藥師寺東塔

によつてうかがふことが出来る。中でも鏡、劍、樂器、織物などは驚くに足る優秀なものである。

日本(平安時代) 都が京都に移されてのち、空海等によつて支那の密教が傳へられ、金剛峯寺、延暦寺などの大規模の寺院おこり、各地に高い塔がそびえた。佛像彫刻も盛に行はれ、更に各種の繪畫が作られた。

藤原氏の勢力盛となつた頃よりは、専ら彌陀如來を信じ、彌陀堂が多く造られた。その代表



平等院鳳凰堂

的遺物は平等院鳳凰堂である。その外観優雅を極め、天井に彩色し壁畫を畫き定朝作と傳へる阿彌陀如來像を安置してある。又繪畫には阿彌陀二十五菩薩來迎圖などの、すぐれた佛教畫の外、繪卷物の製作が盛となり、藤原隆能筆とい



鳥歌戲畫 (鳥羽僧正)

ふ「源氏物語繪卷」、鳥羽僧正筆「鳥歌戲畫」など著名なものが多く作られた。またこの頃は織物、漆工、金工などにも見るべきものがあつた。やや降つて、中尊寺金色堂の如きを遺してゐる。

またこの頃までに神社建築の様式が分れ、屋根の構造など、次第に複雑となつた。

日本(鎌倉時代) 鎌倉幕府開かるゝや禪宗建

築起り、圓覺寺舍利殿、東大寺鐘樓などが出来た。彫刻も、運慶一派があらはれ、雄偉な、活躍したものを作つた。東大寺南大門金剛力士像(仁王)の如きそれである。また鎌倉大佛は當時のすぐれた銅像である。繪畫は、繪卷物の全盛時代で、「北野天神緣起」「法然上人繪傳」「春日權現驗記」など優秀な製作が頗る多い。藤原信實、土佐吉光、高階隆兼などその作者である。これらによつて、「やまと繪」、また土佐派の繪畫がほぼ確定された。

日本(室町時代) 室町時代には、建築に金閣、銀閣の如き、趣向を凝らした住宅あり、また巧に庭園を造つて風致を添へた。彫刻は衰へて見るに足りないが、繪畫は宋元の風を取り入れ、禪味のゆたかな墨畫がよろこばれた。別に兆殿司の如き多彩の佛像畫もあれど、多くは如雪、周文、雪舟、小栗宗丹などの如き、風景畫家の作品である。中にも雪舟は畫僧として最も有名で、破墨を得意とした。雪村周繼、狩野正信などあり、正信の子元信は、のちの狩野派の祖で畫技も頗るすぐれてゐた。この時代の末に足利義政が將軍となり専ら茶道を玩んだので、製



讀畫圖 (狩野元信)

陶盛となり鎌倉の末に名工加藤景正(藤四郎)出で、この頃より瀬戸、伊萬里、九谷などにて名

陶を産するに至つた。

日本(桃山時代) 豊臣秀吉の桃山時代には、専ら豪華なものをよろこび、建築の遺物にも大徳寺、本願寺などの唐門の如きを見るが、茶道の風味ゆたかな本願寺飛雲閣のやうな建築もできた。この前後は戦國武士の風あつて、城郭建築もおこり、徳川時代のはじめにかけて、名古屋、熊本、姫路その他の諸城が築かれた。また武器、甲冑のたくひにも裝飾のすぐれたものが造られた。繪畫には狩野永徳、同山樂、海北友松などが、豪華華美な障壁畫を描き、本阿彌光悦は陶工としての外、やまと繪風をよくした。またこの前後より、しきりに西洋や南洋の文物が



花鳥畫屏風 (狩野山樂)

輸入され、美術に影響を與へた。

日本(江戸時代) 江戸時代のはじめには城郭建築の外、日光東照宮の如き、彫技と彩色とを凝らした廟建築ができたが、その後、この時代を通じて殆ど建築にも彫刻にも見るべきものはなかつた。たゞ繪畫は空前の盛況を呈した。はじめ狩野探幽等によりてその派が擴大され、以來主流となつたが、その外にやまと繪に土佐光起、住吉具慶等あつてこれと拮抗し、更に俵屋宗達、尾形光琳等によりて、いはゆる光琳風が生じ、のちに酒井抱一などもあつた。又狩野派には、のち狩野常信あり、やまと繪には、のち

復興派があらはれた。

しかるに、江戸時代の初期より見られた時代

風俗の畫家は、岩佐又兵衛を経て菱川師宣の頃より版畫に特殊な境地を拓き、鈴木春信、奥村政信などにより、江戸錦繪が



針仕事(喜多川歌麿)發達した。喜多川歌麿、歌川豊國、鳥居清長、東洲齋宮樂などは、その代表者である。また鳥居派は

芝居繪をもつて知ら



白雲紅樹圖(池大雅)

れた。のち葛飾北齋、安藤廣重は、風景版畫を試みて世の稱讃を博するが、繪草紙もまたこの時代の流行であつた。

また支那の明清の山水畫風に倣つて、いはゆる南畫が起つた。南畫は一に文人畫ともいひ、もと士人學者の餘技であつた。池大雅、

與謝蕪村、渡邊峯山、田能村竹田など最も知られ、谷文晁は南北合派と稱した。別に京都に圓



雪景 (松村吳春)

山應舉の圓山派と松村吳春の四條派とが起り、何れも寫生を主とし、穩雅な筆致を特技とした。門弟多く、これより關西に畫道が勃興した。江戸時代には工藝もまた榮え、裝劍、能面、塗物、陶器、織工など、みな極めて優良なものを製作し、工藝においては日本美術史上その比がない。



八橋圖硯宮 (尾形光琳)

日本(現代) 東京時代に入ると、明治のはじめ一方に從來の傳統を尊重すると共に他方に西洋文明の影響滔々として著大となり、すぐれた人々も多く出た。狩

野派の狩野芳崖、橋本雅邦等は最も著名であるが、ついで西洋畫で小山正太郎、黒田清輝、日本畫では荒木寛敏、寺崎廣業等出で、現に川合玉堂、横山大観、下村観山、竹内栖鳳等著



厨房 (黒田清輝)

名の人々あり、政府は美術學校、帝國美術院等を設け、民間にも多くの畫會、研究團體等を生じ、美術は益々隆盛となりつゝある。大正より昭和の今日にわ



王摩詰 (寺崎廣業)

たりて國粹主義と歐化主義とが混然として流れてゐる。故に、轉じて更に中世以後の西洋美術を瞥見するの必要がある。

西洋美術

初期キリスト教美術とビザンチン美術

西洋ではギリシヤ、ついでローマで美術の榮えた頃、別にキリスト教の信仰に伴ふ美術が発生し、つひにのちにはそれが西洋美術の最も主要なものに發達した。即ちはじめキリストの死後一二百年の頃より、ひそかに信者たちが集まる地中のカタコームに繪畫や彫刻をのこし、更に信仰の公認に



慈母觀音圖 (狩野芳崖)

つれて最初のキリスト教寺院たるバジリカを設けた。しかるに第四世紀の頃、西ローマ帝國に代つて東ローマ帝國が盛んとなるや、その都コンスタンティノーブルを中心にビザンチン美術が起つた。その代表的遺物はセント・ソフィヤ



セント・ソフィヤ

寺院で、またラヴェンナ地方に美しきモザイクなどを遺してゐる。

イスラム教美術 一方、西アジア地方にマホメッドがイスラム教を唱へるや、その宗教による建物がエジプトやスペインに建設され、今に莊大華麗な多くの寺院宮殿を遺してゐる。そのサラセン模様は最も有名である。イスラム教美術は、ペルシヤ、インドへも擴がり、またビザンチン美術は初期のロシア地方の美術にも影響してゐる。

ローマネスクとゴシック 第十一・二世紀の頃には、主として北イタリアから南フランスのあたりにローマネスクの建築があらはれ、ついで第十二・三世紀の頃からゴシックの建築が、北フランスより東へ、ドイツ地方、更に北イタリアにまで及んで行はれ、イギリスにもイギリス・ゴシック建築が生じた。ローマネスク建築は屋根低く壁厚く、その代表作にはピサの斜塔その他、フロレンスのサン・ミケレ寺などあり、ゴシック建築は、高さ高く屋根尖り輕快の感じ

があり、その代表作にバリーのノートル・ダム寺院、ケルン及びミラノのカテドラルなどあり、ロンドンのウエスト・ミンスター寺はイギリス・ゴシック式である。何れも窓にステンド・グラスを用ひたり、壁にモザイクやフレスコを飾つたり、また柱や玄関に多くの彫刻を施したりしてある。殊にゴシック彫刻は往々奇異にして趣に富んでゐる。

ルネッサンス 第十四世紀のはじめより主としてイタリアで新しい藝術運動起り、こゝに近代美術の先驅が見られる。中にもフロレンスは

その中心をなし、彫刻にドナテロが出て傑



騎馬像 (ドナテロ)



小鳥に説教す (ジョット)

作をのこした。繪畫にはジョットーあり、バドヴァやアッシジなどの寺院に聯作の壁畫を作つて最も有名である。その外、フラ・アンジェリコ、マサッチョ、フィリッポ・リツピ、ボツチチェリーなどみな名畫をもつて知られる。殊に、やゝのちに出でたレオナルド・ダヴィンチとミケラン



モナ・リザ (レオナルド)

ジェロとは、ラファエロと共に、當時の三畫聖と呼ばれるだけに、その作畫も最もすぐれてゐる。レオナルドには「モナリザ」や「最後の晩餐」あり、ミケランジェ

ロにはシステインの天井畫及び壁畫あり、またその彫刻「モーゼ」その他も傑出してゐる。ラファエロにも「システインの Madonna」などの力作がある。



天の愛地の愛 (テイチアン)

その外、ヴェニス、ミラノ、ウムブリヤ、ローマなどに畫派がおこり、ヴェニスのテイチアン、ベルリニなどが有名である。

建築もまたこの時代に特別な發達をなし、ルネッサンス式は現今も行はれる。フロレンスのウフィッチ、ゾモ、ローマのサン・ピエトロ寺、フランスのルーブル、ヴェルサイユなどはこの様式の典型とされる。

北歐ルネッサンス 別にこの頃より、フランス、ベルギー、ドイツなどにも新しい美術がおこつた。殊に今のベルギー、當時のフランダ地方には、ファン・アイク兄弟をはじめメムリンク等すぐれた畫家が多かつた。またフランス、



唱歌と音楽 (ファン・アイク)

オランダ等にも各種の畫派が生じ、ドイツにはデューラーがあらはれ、ホルバイン、クラナッ

ハも同じ頃、相伍して名をなした。

第十七世紀の頃



王子像 (ヴェラスケズ)

にはスペインにグレコ、ムリロあり、殊にヴェ

ラスケズは肖像畫をもつて最も知られた。また今のオランダ、當時のネザール地方のレムブラントは特殊の畫法をもつて最も世に名高



小兒群像 (リユーベンス)

く、「解剖講義」「夜警」などの代表作を遺してゐる。同じ頃ベルギーに大家リユーベンスあり、ヴァン・ダイクも世に知られた。

フランス美術 またこの頃からフランスにル・ブラン、ブーサン、ローランなどあらはれ、繪畫にすぐれたのみならず、ゴブラン織、セーヴル陶器などもこの頃から盛となり、且つ国立美術院(アカデミー)も設けられて、フランス美術の奨励めざましきものがあつた。されば第十八世紀には、ワトーの一派がさかえた外、フラゴナール、ダヴィドなど出で、華やかな裝飾美術をもつて世を壓した。彫刻もまたこの頃よりさかえ、カノーヴァの如きがあらはれた。第十九世紀には、フランス革命ののち、新古典派が盛となり、ダヴィド、アンゲルなど知られ、ついでローマン主義がさかえ、その代表者ドラクロアが出でた。ダヴィドの「レカミエ夫人像」、



レカミエ夫人像 (ダヴィド)

その他、有名な作品が多い。

寫實主義 イギリスでは第十七世紀の頃より肖像畫と風景畫とがおこり、ホガースの如き自由な作家や、ゲーンズボロー、レーノルズの如き肖像の大家があらはれたが、第十九世紀のはじめにはターナー、コンステーブルの二大風景畫家によつて特色を發揮した。そしてかれらの自然描寫はフランスに影響して、この世紀の中

頃よりバルビゾン派を生じた。その代表者はミレーとコロで、ミレーの「晩鐘」「落穂拾ひ」、



樹のある風景 (コロ)

ついでクールベは寫實派を唱へて「石割」などを描き、ファンタン・ラ・ツールやドーミエも現實的傾向をもつて知られた。

印象派 一八六〇年頃よりエツアール・マネ



草上の食事 (マネ)

一、クロード・モネーなどによつて印象派がはしまつた。また外光派とも呼ばれ、専ら現實主義に立脚して風景、人物などを描き、一新時期を開いた。ルノアール、ドガー、シスレー、ピサロなどこの派に屬する。そして印象派の傾向を押し進めて新印象派(點描派)のシニヤック、スーラなどあらはれ、またセザンヌをはじめゴッホ、ゴーガン、アンリー・ルーソーなどの後期印象派も生じた。中にもセザンヌは新興美術の父と



帆船 (シニヤツク)
新時代を導くものであつた。

新興美術 かくて第二十世紀の繪畫には、マ

チス等のフォー
ヴ派、ピカソ等
の立體派、イタ
リヤに起つた未
來派、ドイツに
盛んであつた表
現派、ロシアに
一時存在した構
成派などあり、



向日葵 (ゴツホ)

またカンディンスキー、ヴァン・ドンゲン、ローランサン、ロート、レビー等の名が今日に知



故郷に歸る (セガソテイニ)

近代に屬する畫家に、フランスのモロー、シャ
ヴァンヌ、ドイツのメンツェル、ベツクリン、
リーバーマン、イタリヤのセガソテイニ、ロシ
ヤのレービン、イギリスのラファエル前派とい
はれるロゼツチ、その他米國のホイスラーなど
が最も有名である。

いはれる
だけにそ
の徹底し
た主觀主
義と、生
彩ある表
現法とは

彫刻・建築・工藝



女の像 (アーキベンコ)

現代彫刻の傾向を一新した。ドイツの表現派彫刻家にレームブルツク、パウルラツハ、り、またアーキベンコ、サツキンが、特異の作品を試みてゐる。

建築は主としてルネッサンス風行はれ、近年セセッション派がおこり、更に新様式を試みる者が多い。バリーのエツフェル塔、ニューヨークのウールワース・ビルディングその他の高層建築などは、建築

の面目を一新しつゝあるものといはれる。

工藝は最近殊に盛となり、各種の方面に新しい發展が見られ、特にその圖案の現代的な清新さをもつて注意すべきである。

今や美術も、その内容に、形式に、材料に、用途に、一大革新の時期に遭遇してゐる。



ウールワース・ビルディング

美術年表

西紀	3000		1000		1600		1700		1800		1900	
	前	元	前	元	前	元	前	元	前	元	前	元
日	神		山		江		戸		時		代	
	野永徳		尾山樂		池大雅		谷文晁		橋本雅邦		狩野芳崖	
東	共		昌		王		時		敏		趙	
	繼		備		王		石		谷		錢	
洋	メ		ソ		バ		ロ		ツ		ク	
	エ		ジ		ダ		グ		イ		ド	
西	一		ベ		ゴ		ヤ		ダ		ム	
	ン		ダ		ラ		ゴ		グ		ン	
洋	エ		ー		ー		ー		ー		ー	
	ー		ー		ー		ー		ー		ー	

美術年表

西暦	3000	1000	500	0	500	800	1000	1100	1200	1300	1400	1500	1600	1700	1800	1900
日	神武天皇															
	飛鳥奈良時代		平安前期		平安後期		鎌倉時代		室町時代		桃山時代		江戸時代		東京時代	
東	古 代															
	漢魏六朝		隋		唐		宋		元		明		清			
洋	メソポタミヤ															
	エジプト		ギリシャ		サラセン		イタリア・ルネッサンス		北ヨーロッパ・ルネッサンス		パロツク		最近代		現代	
西	エーゲ海地方															
	エーゲ海地方		ギリシャ		サラセン		イタリア・ルネッサンス		北ヨーロッパ・ルネッサンス		パロツク		最近代		現代	

刻は第十九世紀のはじめより、フランスに大家著はれたが、殊に最近、ロダン、マイヨール、ブルデル等が出た。中にもロダンはケランジェロ以来の大才といはれ、現代彫刻の傾向を見派彫刻家にレームブル、またアーキベンコ、を試みてゐる。フランス風行はれ、近年、更に新様式を試みるツフエル塔、ニューヨーク、レディングその他の高層ビル、形式に、材料に、に遭遇してゐる。



發賣所

東京市京橋區南傳馬町貳丁目
目 黒 書 店

發行所

東京市下谷區櫻木町貳番地
晚 成 處

印刷者

東京市神田區東松下町拾六番地
小 柴 錦 侍

發行者

東京市下谷區櫻木町貳番地
岩 田 僊 太 郎

著作者

東京市下谷區櫻木町貳番地
美 育 振 興 會

昭和五年一月八日發行

鑑賞一般
美育新梯

昭和五年一月五日印刷

(著作權所有)

定價金壹圓貳拾錢

83-489



1200501327943

終